

スポーツ庁国庫補助事業
令和7年度 地域スポーツ推進体制基盤強化事業
活動報告書



公益財団法人 群馬県スポーツ協会

【目次】

- 1 あいさつ
- 2 令和3年度の提言に対する令和7年度実績の振り返り
- 3 計画したアクションプランに対する令和7年度実績評価
- 4 課題のスケジュール・アクションプラン実行スケジュール
- 5 スポーツによる地域課題の解決に向けた取組の推進
 - I 地域スポーツ推進団体連絡会議
 1. 委員名簿
 2. 地域スポーツ推進団体連絡会議議事要旨
 - ① 第1回連絡会議
 - ② 第2回連絡会議
 - ③ 第3回連絡会議
 - II 各種研修会
 1. ブロック別研修会
 - ① 北毛ブロック
 - ② 東毛ブロック
 - ③ 中毛ブロック
 - ④ 西毛ブロック
 2. クラブ別研修会
 3. 日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー養成講習会
 4. フォローアップセミナー①・②
 5. 実技研修会
 - ①ボッチャ・ゴールボール実技研修会
 - III 現地調査
全国登録に向けた県内クラブの現地調査
西毛地区：①特定非営利活動法人おにし文化スポーツネット
中毛地区：②前橋バンビ
北毛地区：③一般社団法人沼田クラブ
東毛地区：④健康夢友クラブ
 - IV 登録審査委員会
 1. 全国登録クラブの実態調査
 - ① 前橋バンビ
 - ② 特定非営利活動法人PALA I STRA
 2. 事前書類審査
 3. 第1回登録審査委員会
 4. 第2回登録審査委員会

あ い さ つ

平素より、公益財団法人群馬県スポーツ協会の諸事業に対しまして格別のご理解とご支援を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、このたび令和7年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業における活動を取りまとめ、報告書を発刊する運びとなりました。本誌では、令和3年度に策定した提言に基づき取り組んでまいりました、五つの項目について今年度の取組の状況と今後の方向性について報告させていただきます。また、地域スポーツ推進団体連絡会議が中心となって進めてまいりました、ブロック別研修会・クラブ別研修会・フォローアップセミナー等の各種研修会の様子や全国登録に向けた実地調査の概要を紹介しております。

スポーツを取り巻く環境が大きく変化する中であって、誰もが気軽にスポーツに親しみ、心身の健康づくりや地域交流の促進につながる取組の重要性は、ますます高まっております。「だれでも、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむことができる」ことを目指した、総合型地域スポーツクラブの基盤強化は、地域のスポーツ環境向上に向けて不可欠なものと考えます。

本誌が、本県の総合型地域スポーツクラブの発展、ひいては地域スポーツ活動の活性化の一助となるとともに、公立中学校における部活動の地域展開への対応において必要とされている「受け皿」としての基盤強化につながることを期待しております。

結びに、本誌の作成にあたり御協力いただきました関係各位に御礼申し上げますとともに、皆様のますますの御活躍を祈念申し上げ、巻頭のあいさつといたします。

公益財団法人群馬県スポーツ協会
事務局長 本事業座長 矢島 貢

2 令和3年度の提言に対する令和7年度実績の振り返り

(令和4年度の協議の過程で、令和3年度の提言等の一部見直しを行った)

(令和3年度に定めた提言)

1. 人材育成プログラム開発

令和5年度から順次移行する学校部活動の休日の運動部活動の地域移行を円滑に進めるために、学校と地域を繋ぐ「コーディネーター」と「アシスタントマネジャー」を養成する研修会を開催する。また、地域スポーツクラブの財源確保に必要な人材育成並びに部活動指導者に対する共通プログラムを用いた育成を積極的に行う。

【評価】

- 令和7年度地域スポーツ推進体制基盤強化事業のテーマが「人材育成（養成）とクラブの質の向上であることから、スポーツクラブの中核を担う人材の養成・発掘を目指し、平成5年度から継続して、アシスタントマネジャー養成講習会を実施しています。本年度の参加者は23名であり、昨年度に比べると大幅に増加しました。令和12年度から全国登録申請時から移行措置が終了することから、本事業を継続して実施しなければならないと感じています。また、公認スタートコーチ（ジュニア・ユース）も含め、資格の有用性を各クラブやスポーツ少年団等の関係者に理解してもらえるよう、適切な情報提供や呼びかけを行うことが重要であると感じています。また、今年度新たな取組として開催されました、若手の人材育成・確保のためのスポーツボランティアワークショップでは、県内の高校生や大学生を中心に、幅広い範囲からの参加がみられ、人材育成という点では一定の成果を収めることができました。今後は、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ関係者にも積極的に参加してもらえよう環境づくりが必要だと考えています。

2. 子どもの体力向上等のプログラム開発と普及啓発

子どもの体力向上のために、ACPの普及啓発並びにタブレット等を活用して教育DXにふさわしいプログラムを県内大学と協働・連携して開発する。

【評価】

- ACPの普及啓発については、今年度も特設普及・啓発活動は実施していませんが、日本スポーツ協会が主催する講習会が、3年連続群馬県会場で実施されています。今年度は、群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会のブロック別事業として、ACP講習会が西毛ブロックで開催されるにあたり、各市町村のスポーツ少年団事務局や県内総合型地域スポーツクラブあてに情報提供を行いました。大学、高等学校等との連携が期待されるころまでにはきていられると思われるので連携強化し、ACPの全県下への普及啓発を一層推進していきたいと考えています。

3. インクルージョン社会を目指した活動普及

障害者スポーツ参加を高めるために、健常者と障害者の垣根を超えたイベントを各団体が協力して企画運営する。

【評価】

- 令和6年度からバリアフリー社会を必要とする人々が自由に参加し、尊重し合い、支え合うことができるスポーツ環境を構築するために一般社団法人群馬県パラスポーツ協会との共催事業として、パラスポーツ実技研修会を開催しています。今年度は、ボッチャとゴールボールの実技研修会を実施することができ、参加者は43名（ボッチャ16名、ゴールボール21名スタッフ6名）でした。今後も健常者と障害者の相互理解を深め、共生社会の形成のためには、本事業を継続的に実施し、拡大を図っていきたいと感じています。

4. スポーツ力によって地域活性化へ

スポーツによって地域活性化ができる地域スポーツクラブを育成し、地域の魅力を発信できるスポーツコミッションが組織できるように支援する。

【評価】

- 地域スポーツ推進連絡会議委員による、全国登録に向けた県内クラブの現地調査を継続的に行い、クラブの課題解決に向け意見交換をクラブ代表と行いました。今後、部活動の地域展開や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備・スポーツ少年団と総合型の連携（統合）、スポーツを通じた街づくりのための取り組み等、様々な課題が地域スポーツクラブに求められています。今年度新たな取組として、持続可能なクラブづくりに繋げるため、自主的に立案・企画・運営する機会を提供するため、クラブ別研修会を企画しましたが、希望クラブが5クラブにとどまってしまったことが残念でした。今後は、様々なニーズや課題等进行分析し、各クラブの将来像をしっかりと見据え研究していくよう、指導・助言を行っていく必要があると感じました。

5. 各団体間の円滑な情報共有化を促進する

地域スポーツ推進連絡会議は、今後も継続して開催し、各団体間を繋ぐ会議体として活動が継続できるようにする。また、オンライン会議システムを県スポーツ協会として常時使用できるようにシステムを構築する。

【評価】

- 総合型クラブ、スポーツ少年団、スポーツ推進委員等の地域スポーツ団体関係者で構成する地域スポーツ推進団体連絡会議を年3回開催し、スポーツによる地域課題解決（総合型クラブの自立と質の向上、スポーツ少年団との連携の在り方、学校部活動の地域展開等）に向けた議論を行いました。また、スポーツを通しての地域活性化を推進する上でも、未設置地域への働きかけが急務と考えます。そのために、関係団体や行政と連携し、対策を講じる必要があると感じました。

(7年度実績の振り返り)

- 令和7年度も前年度の検討課題でありました、「人材育成」と「全クラブの質的充実と持続可能なクラブ運営」を継続テーマとして取り組んできました。その目的を達成するため、アシスタントマネージャー養成講習会や、フォローアップセミナー等の様々の事業を開催し一定の成果が得られたと感じています。今年度新たな事業として「若手の人材育成・確保のためのスポーツボランティアワークショップ」を実施、若者の声をクラブ運営に反映させることをテーマに、高校生から大学生を中心に参加があり、貴重な発言をいただきました。特に高齢化や後継者問題に不安を抱えるクラブにとっては、意義深い研修会になったと考えます。今後の課題として、部活動の地域展開や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備やスポーツ少年団と総合型の連携（統合）、スポーツを通じた街づくりのための取り組み等、様々な課題が地域スポーツクラブに求められている中、「若い世代人材の起用・確保」と「クラブ運営の基盤強化」に繋げていことが必要と考えています。
そのためにも、委員の皆様と創意工夫を重ね成果をあげていければと考えています。また、公益財団法人群馬県スポーツ協会としても、迅速な情報提供ができるようHPの充実を図るとともにオンラインシステムの構築に向け研究を推進していきたいと考えています。

3 計画したアクションプランに対する令和7年度実績の評価

令和4年度以降のアクションプラン項目	評価
1. 先進的な人材育成プログラム開発	
① 令和4年度から人材育成に必要な財源を支援する	B
2. 子どもの体力向上等のプログラム開発と普及啓発	
① ACPの全県下への普及啓発活動	B
② 大学等と協働・連携して、プログラム開発、データ収集と分析	C
③ 高等学校等と連携して、地域活動に興味がある生徒たちの活動の場としてプログラム構築に参画してもらう	C
3. インクルージョン社会を目指した活動普及	
① 障害者スポーツの普及啓発活動	A
② 県スポーツ協会と県パラスポーツ協会共同イベントの開催	A
4. スポーツカによって地域活性化へ	
① 各自治体は、総合型クラブが組織されていない地域に対して、スポーツ少年団、スポーツ推進委員会を中心に地域スポーツクラブ育成を促進するための予算措置を行う。	B
② 温泉、山歩き、スキー・スケート等観光・レジャー資源に恵まれている特性を活かして各地域がスポーツカで地域の魅力を発信する	C
5. 各団体間の円滑な情報共有化を促進する	
① 年間4～6回程度、定期的に各団体間で情報共有するために会議を開催する。	B
② 県スポーツ協会は、円滑に情報交換できるようにオンラインシステムを構築する。また、使用方法についても研修会を併せて開催する	C

【評価記号について】

- A・・・計画どおりに実施できた
- B・・・一部計画どおりに実施できた
- C・・・実施に向けて取り組んでいる
- D・・・全く または ほぼ実施できていない

【アクションプランに対する年間実績自己評価】

人材育成については、アシスタントマネジャー養成コースや各種研修会を開催し、一定の成果を収めることができたと思います。しかし残念ながら、クラブ関係者の参加が少ないように感じました。令和12年度から全国登録申請時から移行措置が終了するため、クラブの運営者だけでなく、クラブ員の方々にも参加してもらえるような働きかけが今後も必要だと考えます。若者の声をクラブ運営に反映させることをテーマに開催した、「若手の人材育成・確保のためのスポーツボランティアワークショップ」は大きな成果を得ることができたと考えます。

4 課題のスケジュール・アクションプラン実行スケジュール

【課題に対応したスケジュール】

項目	R3	R4	R5	R6	R7	R8
(現行)県スポーツ推進計画	→					
総合型クラブ登録・認証制度	→					
スポーツ少年団改革プラン	→					
休日の部活動地域移行	→					

【実行スケジュール】★は実施 ☆は未実施または未達成 ◎は重点項目

項目	R5	R6	R7	R8
1. 先進的な人材育成プログラム開発				
① 人材育成に必要な財源を支援する	★	★	★	◎
② クラブ運営に若い人たちに参画してもらう（新規）			★	◎
2. 子どもの体力向上等のプログラム開発と普及啓発				
① ACPの全県下への普及啓発活動	★	★	★	
② 大学と協働・連携して、プログラム開発、データ収集と分析を行う	☆	☆	☆	
③ 高等学校等と連携して、地域活動に興味がある生徒たちの活動の場としてプログラム構築に参画してもらう	☆	☆	☆	
3. インクルージョン社会を目指した活動普及				
① 障害者スポーツの普及啓発活動	★	★	★	
② 県スポーツ協会と県パラスポーツ協会共同イベントの開催	★	★	★	
4. スポーツカによって地域活性化へ				
① 各自治体は、総合型クラブが組織されていない地域に対して、スポーツ少年団、スポーツ推進員を中心に地域スポーツクラブ育成を促進するための予算措置を行う	☆	☆	☆※	◎
② 温泉、山歩き、スキー・スケート等観光・レジャー資源に恵まれている特性を活かして、各地域がスポーツカで地域の魅力を発信する	☆※	★	☆	
5. 各団体間の円滑な情報共有化を促進する				
① 年間4～6回程度、定期的に各団体間で情報共有するために会議を開催する	★	★	★	
② 県スポーツ協会は、円滑に情報交換できるようにオンラインシステムを構築する。また、使用方法についても研修会を併せて開催する	☆	☆	☆	◎

※4-①・②の☆評価は、事業実施したが未達成

◎重点項目

・クラブの後継者問題や人材不足は喫緊の課題であり、1-②「クラブ運営に若い人たちに参加してもらう」の事項を引き続き重点項目として位置づけていきたい。若者たちの生の声を真摯に受け止め、県内の若者たちが興味関心を持って地域のスポーツに携われるような仕組みや仕掛けが必要だと考える。また、4-①「地域スポーツクラブ育成の促進」5-②「オンラインシステムの構築」についても推進して行きたい。

I 地域スポーツ推進団体連絡会議

【地域スポーツ推進団体連絡会議 委員名簿】

- 1 高橋 敏文（群馬県地域創生部スポーツ局スポーツ振興課長）
- 2 山田 知利（群馬県教育委員会健康体育課長）
- 3 菅谷 美沙都（上武大学ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科講師）
- 4 蜂須賀 信也（群馬県スポーツ推進委員協議会会長）
- 5 中澤 則行（群馬県スポーツ指導者協議会副会長）
- 6 狩野 誠（群馬県スポーツ少年団指導者協議会運営委員長）
- 7 大澤 哲夫（群馬県スポーツ少年団常任委員）
- 8 小野里 順子（群馬県スポーツ協会理事）
- 9 平林 知巳（群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長）
- 10 小出 利一（群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会副会長）
- 11 奈良 吉造（群馬県パラスポーツ協会事務局長）
- 12 小林 秀光（群馬県スポーツ協会クラブアドバイザー）
- 13 矢島 貢（座長・群馬県スポーツ協会事務局長）

第1回群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議 議事要旨

日 時：令和7年5月29日（木） 14：00から

会 場：群馬県庁昭和庁舎 11会議室

出席者：山田知利委員、菅谷美沙都委員、中澤則行委員、狩野誠委員、小野里順子委員、
大澤哲夫委員、小出利一委員、奈良吉造委員、小林秀光委員、矢島貢委員

オブザーバー：橋本繁男係長、加藤和樹副主幹（スポーツ振興課）小林史尚指導主事（健康
体育課）

欠席者：高橋敏文委員、蜂須賀信也委員、平林知巳委員

事務局：小林武宏課長、須田洋輔主任（全体進行）、新井はるか主事（スポ少担当）、吉井均
年度雇用職員（報告・記）

1 開 会

2 あいさつ

公益財団法人群馬県スポーツ協会 矢島貢事務局長

- ① サービスを受ける者と提供する者の隔たりが、大きな社会になっていると感じている。
お客さんと店員の関係、カスタマー・ハラスメントのように、両者の意識の隔たりが、
大きくなりやすい世の中になっている。本来であれば先生と保護者が連携・協力して
人間づくりを行う場であり、学校についても、サービスを受ける者と提供する者の隔
たり、先生と保護者の意識の隔たりが大きく、保護者との関係性の構築に苦労するこ
とが年々多くなってきていると感じている。
- ② スポーツ振興の場面でも様々な隔たり、例えば、性別、年代別、勝負別、目的志向別、
など、スポーツ自身が受けている隔たりが存在していると思う。この最近の活動に志
向が強まり、多様なスポーツへのかかわり方望まれてきている中で、総合型スポーツ
クラブと言うのは、この隔たりを克服しながら、身近にスポーツを楽しむ環境として、
その役割が大きく期待されていると感じている。
- ③ 私自身も4月からこの役職についていますので、色々勉強をさせていただければ、あ
りがたいと思います。よろしくお願いします。

3 自己紹介

4 情報提供

1) 運動部活動の地域移行（展開）の現状について（別紙資料）

【健康体育課小林指導主事からの説明】

① 部活動地域移行の概要～国の部活動改革の動向について

ア) 地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」最終まとめより

○地域全体で連携して行う取組の名称（地域移行）の名称変更等について

・生徒のスポーツ・文化芸術活動の場を学校部活動から地域クラブへ、実施主体を学校か

ら地域クラブ活動へと転換していくことを「地域移行」という名称で示してきたところ、改革の理念や地域クラブ活動の在り方等をよりの確に表す観点から名称を「地域展開」に変更する。※学校が主体となる学校部活動から地域が主体となる地域クラブ活動へ転換していく

イ) 改革の理念及び基本的な考え方等について

○地域クラブ活動の在り方は、学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、新たな価値を創出することが重要であることから、民間のクラブチーム等との区別や質の観点から、国として、地域クラブ活動の定義や要件や認定方法等を示した上で、地方公共団体において認定を行う仕組みを構築する必要がある。

○改革を進めるに当たっての基本的な考え方は、また、障害のある子供や運動に苦手な子供等を含め、多様な子供が希望に応じて安心して活動に参加できる環境を整備することが重要である。

ウ) 今後の改革の方向性について

○休日については、次期改革期間内に、原則、全ての学校部活動において地域展開の実現を目指す。改革実行期間は、前期：令和8～10年⇒ 中間評価 ⇒後期：令和11～13年と定め、前期の間に確実に休日の地域展開等に着手する。費用負担の在り方等は、受益者負担と公的負担とのバランス等の費用負担の在り方を検討する。

エ) 地方公共団体における推進体制の整備について

○地方公共団体においては、専門部署の設置や総括コーディネーターの配置等、適切な推進体制を整備することが重要とされている。

② 部活動地域移行の概要～群馬県の動向について

ア) 群馬県の推進計画について

○推進目標の基本目標については、令和7年度末（推進期間3年目）期間までに、市町村や県内全ての公立中学校等で、地域や学校の実状に応じ、学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に取り組むことができる環境整備を進める。

○地域クラブ活動の環境整備については、多様な地域クラブ活動の環境整備は、県及び郡・市町村並びに地域の運営団体・実施主体等において進めることが考えられる。

○令和7年度は複数部活動において、地域連携（部活動指導員や外部指導員の活用）や、試験的に休日の学校部活動を地域クラブ活動で実施する。複数部活動において、恒常的に休日の活動を地域クラブへ移行する。

イ) 地域連携と地域クラブ活動への移行の違いについて

○部活動は学校教育の一環で、地域の外部指導者や部活動指導員が、学校部活動の指導に入り、生徒の活動を充実させ、教職員の負担軽減につなげることが地域連携である。地域クラブは社会教育活動で、学校と地域が連携して、地域の運営団体・実施主体が活動を実施し、多様な活動に生徒が主体的に参加できるようにすることで、部活動をそのまま移すイメージより、生徒のニーズに対応して実施する。

ウ) 目指す地域クラブ活動とは

○スポーツとは、世界共通の人類の文化で、スポーツを通じて豊かな生活を営むことは、全ての人の権利をいい、体育は、学習指導要領に基づいて、教員から生徒が学ぶ教科をいう。

○チームとは、限られたメンバーでクローズの活動をいい、クラブは、常に誰にでも開かれた活動をいう。

エ) 今後の取組予定について

○実証事業、重点地域における政策課題への対応、県地域クラブ活動体制整備検討委員会・WG会議開催、推進計画の見直し、全35市町村訪問、先行取組自治体の視察や研修会への参加、周知活動の充実（セミナー、シンポジウム、ワークショップ、ホームページの作成、コーディネーター派遣制度）

【委員からの質問や情報提供等】

矢島委員より

・国が地域クラブの要件を夏頃に示す計画と伺っているが、内容的や方向性について教えていただけるとありがたい。

【回答】

小出委員より

- ① 日本スポーツ協会が総合型地域スポーツクラブ認証制度を進めているので、この認証制度を参考に進められると思うので、大きく変わった方向性は示されないと思う。
- ② 「地域スポーツクラブ」とはまだスポーツ庁が定めていない。
- ③ 基本ベースはスポーツの存在をこれ以上緩くしないことを想定している

大澤委員より

・今回の委員名簿を見ると、学校部活動の地域展開の中心となる中体連の関係者含まれていない理由は？

【回答】

- ① 学校部活動の地域展開も一つの地域課題であるが、地域クラブに該当する委員を人選させていただいた。部活動または部活動展開に係るものであれば、中体連関係者を呼ぶことは可能である。

5 報告事項

1) 令和7年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業について（参考資料より）

- ・「事業の目的」「推進団体連絡会議の設置・開催」「メンバー構成」「事業計画書及び収支予算書」等について事務局より報告を行う。
- ・メンバー構成につきましては、例で示されている関係者で、令和7年度は、13名を選出させていただいた。
- ・経理処理の委託期間は令和7年4月1日（火）～令和8年2月28日（金）で、委託金の額は二百万程度となっている。
- ・検討すべき地域課題の⑦その他について（「人材育成及び確保（若い世代の人材起用・確保）」に関すること」「全クラブの質的充実と持続可能な運営に関すること」「令和3年

度策定した、5つの提言を実現するためのアクションプランの継続的な推進に関する
こと」の3点を本年度必要な取組として挙げさせていただいた。

- ・登録審査委員会の構成メンバーは、群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の事業であることから、審査員の連絡協議会で審議し、令和7・8年度の委員は決定されていることを報告する。

- ・「地域スポーツクラブ推進体制連絡会議委員」「登録審査委員会委員」の委嘱状を配布する。

6 座長選出

- ・基盤強化事業の事務局が公益財団法人群馬県スポーツ協会にあるため、矢島事務局長を選出

7 議事

1) 令和7年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業計画について（2～3ページ）

【事務局からの説明・提案】

- ① 地域スポーツ推進団体連絡会議関係に関すること
- ② 人材育成及び確保（アシスタントマネジャー養成講習会、フォローアップセミナーの開催）に関すること
- ③ 全クラブの質的充実と持続可能な運営（ブロック別・クラブ別研修会、全国登録に向けた県内クラブの実地調査）に関すること
- ④ 全国登録に向けた県内クラブの実地調査に関すること
- ⑤ 「令和3年度策定した、5つの提言を実現するためのアクションプランの継続的な推進に関すること」の3点を本年度の事業テーマに捉え、「パラスポーツ協会と連携した実技研修会」「中間支援組織登録審査委員会」「講習会」の事業計画に関すること。

※パラスポーツ協会と連携した実技研修会の実施種目については、昨年度は、ポッチャと車いすバスケットボールを行いました。今年度も引き続きという考え方もありますし、別の種目という考え方もありますので、委員の皆様からご意見をいただきたい旨の審議をお願いします。

【委員からの質問や情報提供等】

大澤委員より

- ・講習会で「若い世代をクラブ運営に巻き込む」ことは、とても重要であると思うが、具体的な対象年齢を想定しているのか。
- ・その年代のアスリート系の人たちは、そのような講習会に参加することは難しい。本来ならば、これからスポーツ界の中心的になる人材を、このような場面に参加させていただけるかが重要と考える。

小出委員より

- ・高校には探究学習の時間が設けられている。ある学校では、「地域スポーツとアスリート」を定義で行っている。機会があれば参加させたいので、声をかけて欲しいと言われている。
- ・基盤強化事業は総合型地域スポーツクラブが、登録制を始めるにあたって、登録審査委員会を行わなければならない。それは、都道府県のスポーツ協会に中間支援組織を設けるにあたり、令和3年度から予算措置され、総合型地域スポーツクラブの質的充実を目指すこ

とが主目的で事業が展開できている。

【回答】

- ・県教委が実施したワークショップをイメージしている。(中学生～大学生)
 - ・各方面に開催通知を発送し趣旨を理解していただき、世代を超えて参加を呼びかけていきたい。
- ⑥ 「スポレクフェス2025」の開催について、現時点の開催要項(案)より説明を行う。
(4ページ)

- ・群馬県スポーツ協会の新たな事業としてスポーツを体験する場や交流する場を提供することで、スポーツの実施率の向上と、生涯スポーツを通じた健康増進、スポーツ・レクリエーション活動の普及・発展を図るため開催したい。
- ・群馬県スポーツ協会・群馬県レクリエーション協会が主催し、4団体の協力をいただき、開催期日は、令和7年9月27日(土)ぐんま武道館を予定し、種目別体験やバザー・物産販売等を計画している。
- ・詳細については、第2回の会議でご報告したい。

【委員からの質問や情報提供等】

小出委員より

- ・協賛が群馬ヤクルトしか入っていないが、趣旨に賛同し協賛したい企業が他にあればどのように対応したらよいのか。スポーツ協会が必要であれば繋ぐこともできる。

【回答】

- ・生涯スポーツ団体が集まって、横の繋がりを持つことで、どの団体も抱えている指導者不足の問題等、お互いに知ってもらう機会になればと考え今準備している。
- ・協賛については、販売目的でなければ県スポーツ協会としては大変ありがたいが、今後、事務局内で対応について重ねていきたい。

【決定事項】

- ① 地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業計画は全て承認された。
 - ② パラスポーツ協会と連携した実技研修会の実施種目については、今後検討していく。
- 2) 全国登録に向けた県内クラブの実地調査について(5ページ)

【事務局からの説明・提案】

- ① 全国登録を行っていない県内クラブから、ブロック別に4クラブを抽出し、実施調査を行い、具体的な課題等を検証することで、各クラブの質的充実を図るとともに、登録認証制度への理解を深め県内クラブの質的充実を図るとともに、登録認証制度への理解を深めるため行う旨を説明する。
- ② 具体的な日程等については、今後、該当クラブと今後の調整を行い、委員の皆様のご都合を伺いながら、訪問期間、訪問者、訪問対象クラブ、視察内容、訪問予定者を最終決定できればと考えている。
- ③ 「謝金」「旅費」が支出されることを説明する。

【対象クラブ】

- ① 沼田クラブ（北毛地区：沼田市）
- ② 前橋バンビ（中毛地区：前橋市）
- ③ 健康夢友クラブ（東毛地区：太田市）
- ④ 特定非営利活動法人おにし文化スポーツクラブ（西毛地区：藤岡市）
- ⑤ 特定非営利活動法人あいおいスポーツクラブ（東毛地区：桐生市）

※①～④クラブの調整が叶わない場合は、⑤クラブへの訪問を依頼予定
※小林クラブアドバイザーより、対象クラブ抽出理由を説明する。

【決定事項】

・提案どおり承認される。

3) 公認アシスタントマネジャー養成講習コースについて（6ページから10ページ）

【事務局からの説明・提案】

- ① 資料6～7ページの開催要項（案）の、「目的」「日程」「カリキュラム」「検定試験」「申込方法」「登録・認定」「注意事項」等を中心に説明する。
- ② 申込期間については、日本スポーツ協会の承認が得られれば、早めることも考えていることを説明する。

※講習会開催2か月前に申請書類を提出し承認を得る必要がある。（資料10ページ）

- ③ 「テキスト」は、日本スポーツ協会指導者マイページより、受講者が直接ご購入する旨を記載した。
- ④ 定員を40名程度と考えているが、40名を超えた場合でも、原則県内の対象者であれば受け入れたい旨を説明し、開催要項（案）について審議を依頼する。

【決定事項】

- ① 開催要項（案）について承認される。

【事務局からの説明・提案】

※資料8ページの日程表（案）について説明する。

- ① 本講習会の「カリキュラム」は、専門科目35時間の内、集合時間14時間の実施について説明する。
- ② 2日間の日程の中で、14時間に検定試験を含めた日程案について説明する。

【決定事項】

- ① 日程（案）について承認される。

【事務局からの説明・提案】

※資料9ページ～10ページの「講師基準」について説明する。

- ① 申請書類の提出期限が2ヶ月前となることから、今後の会議日程から考えると、本日の会議で、講師基準を満たす候補者を推薦いただきたいと考えている。
- ② 昨年度の群馬県は、日本スポーツ協会（JSPO）が示した、講師基準1と4に該当する方で実施した。令和7年度も昨年度講師を務めていただいたか方で実施したいと考えている。
- ③ 具体的には、「地域スポーツクラブとは」を菅谷美沙都委員（上武大学ビジネス情報学

部)、「クラブマネジャーの役割」を県外ですが、谷塚徹氏(東洋大学健康スポーツ学部に勤務)、ケーススタディを、講師基準4(日本スポーツ協会公認のクラブマネジャー)に該当する、平林知巳委員(伊勢崎西部スポーツクラブ理事長)、小野里順子委員(うすねスポーツクラブ会長)中島和之氏(前橋バンビ代表)の3名を推薦したい旨を説明する。

【決定事項】

- ① 講師として上記③の5名が承認される。
- ② 谷塚先生については、小出委員に調整を依頼する。仮に了解を得られない場合は、他の講師を人選する。
- ③ ケーススタディの担当者については、平林知巳委員、小野里順子委員、中島和幸委員の3者で協議を行い、事務局に回答する。
- 4) 「令和7年度号総合型地域スポーツクラブだより」の作成について(別紙)

【事務局からの説明・提案】

※「令和6年度号総合型地域スポーツクラブだより」を参考に令和7年度の変更案(広報内容)について説明する。

- ① 登録クラブの名称変更並びに追記について説明する。

※前橋バンビ、一般社団法人Owen、特定非営利活動法人Lionnetworks

- ② 資料表紙については、令和6年度号と同じで、「4クラブの活動写真とコメント」を掲示し、レイアウトについては、業者に一任したいと考えている。
- ③ 総合型地域スポーツクラブ紹介のコーナーでは、(1)クラブ名の欄に「現在の会員数」、(2)クラブのHPの有無の欄に、「二次元コード」を追記したいと考えている旨を説明する。
- ④ 未加盟クラブについても、様々な情報を提供し連絡協議会への加盟を進めたいと考え、枠外に記載したい旨を説明する。
- ⑤ 一般県民向けの「イベント・研修会の紹介」、「総合型地域スポーツクラブのQ&A」のコーナーについては、令和6年度号と同様の方法で、情報を提供したい旨を説明する。
- ⑥ 県教委やスポーツ振興課からの情報提供のコーナーについても、令和6年度号と同様に、お願いできればと考えている。掲載内容については一任させていただく旨を説明する。

【委員からの質問や意見】

小出委員より

- ・未加盟クラブについては、名前は残っているが実際に活動しているかわからないのが現状と言える、また、「未加盟クラブ」という名称にも問題があるように思う。
- ・全国登録をしているクラブは「全国登録」、全国登録をしていないクラブは、「準加盟クラブ」としている。規定上から言えば、「未登録クラブ」になるのでは。
- ・活動を行っていないクラブを掲載するわけにはいかないと思うので、確認する必要があるのでは。(憶測や噂で判断できない)

大澤委員より

- ・令和6年度号総合型地域スポーツクラブだよりに記載されているクラブが、本当に総合と言えるのか、紛らわしいので確認したほうが良いのでは。

小出委員より

- ・以前県の調査では40クラブが存在していた。(実際は30クラブ) この数字は、群馬県の生涯スポーツ育成委員会を通じて、総合型地域スポーツクラブとして認めるかを審議し認められた数であるが、その後調査を実施されていない。(県の広域スポーツセンター)も実施していない。
- ・現在は、国の登録認証制度を基に行っているため、未登録クラブはない状況である。

【決定事項】

- ① 「登録クラブの名称変更並びに追記」「4クラブの活動写真とコメント」を掲示「総合型地域スポーツクラブ紹介」「一般県民向けのコーナー」「県教委やスポーツ振興課からの情報提供」については承認される。
- ② 未加盟クラブの記載については、市町村で活動を行っているクラブもあると思うが、連絡協議会には登録されていない。

5) その他 ・特になし

8 その他

○大澤委員よりスポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブの関係性について

- ・吉岡町では学校部活動の地域展開を、総合型地域スポーツを交えて行いたいと考えていたが指導者不足等もあり、現在はスポーツ少年団と一緒に活動を行っている。クラブ形式に移行しているのが現状である。

小出委員より

- ・スポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブの連携体制の構築に向けた取組状況については、日本スポーツ協会の連携会議が9月に組織され、将来の子どもたち達に大人も含め、スポーツ環境を整えることを大前提に議論されている。
- ・群馬県の市町村(35市町村)設置率は62.9%で、全国の46位である。総合型の数も少ないし、地域展開で受け入れられる数も少ない。全国的なトータルで言うと、運営団体も運営主体も3つあって、一つは市町村スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団である。
- ・総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団が一緒になれば、両者ともその地域のスポーツ協会に加盟しているので、それを一つにした方が良いのでは。
- ・平成30年6月に、日本スポーツ協会で、今後の総合型地域スポーツの在り方をジュニアスポーツを中心とした提言を発している。その提言のなかでは、部活動を少年団も総合型も高校部活動も一つになりましよう、と、唄われている。
- ・群馬県スポーツ協会の新たな事業として開催する「スポレクフェス2025」のように、スポーツ少年団と総合型と一緒に活動することから始めることが重要と思う。

事務局より

○指導者養成講習会について

- ・日本スポーツ協会公認スタートコーチ(ジュニア・ユース)養成講習会を、スポーツ協会とスポーツ少年団が主催して行う。ジュニアスポーツ指導者に向けて行に前後期で2

第2回群馬県地域スポーツクラブ推進団体連絡会議 議事概要

日 時：令和7年8月6日（水） 14：00から

会 場：群馬県庁昭和庁舎 11会議室

出席者：蜂須賀信也委員、中澤則行委員、狩野誠委員、大澤哲夫委員、小出利一委員、
奈良吉造委員、小林秀光委員、矢島貢委員

欠席者：高橋敏文委員、山田知利委員、菅谷美沙都委員、平林知巳委員、小野里順子委員

オブザーバー：加藤和樹副主幹（スポーツ振興課）

小山靖弘指導主事（健康体育課）

事務局：小林武広課長、須田洋輔主任（全体進行）、新井はるか主事（スポ少担当）、吉井均
年度雇用職員（報告・記）

1 開 会

2 あいさつ

公益財団法人群馬県スポーツ協会 矢島 貢 事務局長

- ① 暑い中お集まりいただきありがとうございます。8月3日に太田市宝泉小学校で活動を行っている健康夢友クラブに実地調査に出かけました。クラブ会員との意見交換で「総合型地域スポーツクラブ」という名称について質問したところ、「知らない」という発言を受け、周知不足を再認識し、今後の課題が出てきていると感じています。
- ② 今日の会議につきましては、報告事項の他、議題としてスポーツにおける地域課題の解決に向けた取組について準備しましたので、忌憚のないご意見をお願いしたい。

3 情報提供

- 1) 令和7年度ぐんま部活動・地域クラブ活動 指導者・サポーターバンクの募集について（別紙資料）

【地域創生部スポーツ局スポーツ振興課スポーツ振興係加藤副主幹より説明】

※令和7年度も実施する。研修会の実施会場が、バンク登録者の少ない北毛ブロック（沼田市）、東毛ブロック（館林市）で開催する。

4 報告事項

- 1) 地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業について

- ① 令和7年度日本スポーツ協会公認アシスタントマネージャー養成コースについて（資料の1～3ページ）

【事務局からの説明】

- ・7月10日付けで日本スポーツ協会に承認申請書を提出し、7月11日付で、日本スポーツ協会より開催の承認をいただいています。
- ・今後の手続きは、公認スポーツ指導者管理システムへの登録作業を行い、申込期間が長くなりますが、8月7日（木）から開始したいと考えています。

- ・数年後には、各クラブに有資格者が必要になりますので、各クラブへ働きかけをお願いします。

②全国登録に向けた県内クラブの実地調査について（資料の1ページから14ページ）

【事務局からの説明】

- ・委員の皆様からご提出いただきました「訪問報告書」を資料として準備させていただきました。委員の皆様で、ご感想等がありましたら、ご発言をお願いします。
- ・今後、「訪問報告書」を基に、クラブごとにまとめ、「活動報告書」に掲載したいと考えています。
- ・2クラブからは、全国登録に向けた前向きな回答を頂くことができました。
- ・委員の皆様で、特に次年度に向けての実施方法や対象クラブの選出等で、ご意見も含めご感想等がありましたら、事務局まで連絡を頂ければ、次年度に反映させたい。
- ・令和8年度の全国登録に向けた手続きの流れ・スケジュールについて（資料の15ページ）
- ・9月から10月の間に、登録を希望されるクラブは、マイページより申請書類の提出が必要となります。
- ・その後は中間支援組織登録審査委員会の事業となります。日程は未定ですが、おおよその目安としまして、
 - ※11月上旬：登録申請書の提出
 - ※11月中旬：全国登録クラブの実態調査
 - ※12月中旬：令和8年度事前書類審査
 - ※1月上旬：令和8年度全国登録審査委員会
- ・審査委員の皆様には、11月中旬：全国登録クラブの実態調査からのご参加をお願いします。

【小出委員より補足】

- ・令和8年度の総合型地域スポーツクラブ全国協議会登録手続きについては、変更点が多くあるので、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の平林会長と小出副会長が研修会を開催する予定である。

③スポレクフェス2025について（資料の16ページ）

【事務局からの説明】

- ・5月29日（木）に開催されました、第1回地域スポーツ推進団体連絡会議で開催要項をご提案、承認をいただきました。
 - ・詳細については第2回の当会議で報告することとなっておりますので、チラシを準備させていただきました。
 - ・期日、会場、種目別体験やバザー・物産販売等の具体的な内容はチラシの通りです。
 - ・群馬県スポーツ協会・群馬県レクリエーション協会が主催し、4団体の協力をいただき開催する初めての事業となりますので、関係団体への働きかけをお願いいたします。
- ④令和7年度総合型地域スポーツクラブだよりについて（別添資料（令和7・8年度号）・と本資料の17ページ～18）

【事務局からの説明】

- ・5月29日（木）に開催されました、第1回地域スポーツ推進団体連絡会議で令和7年度の変更案についてご審議いただき、承認をいただきました。
- ・承認内容を基に印刷業者の打合せを進めておりますが、変更点が生じたため報告させて

いただきます。

【主な変更内容】

- ・クラブ名の欄に「現在の会員数」追記しました。
- ・HPの枠内に「二次元コード」を追記することは、小さく読み取れないため追記しない。
- ・未登録クラブも枠外に記載については、市町村も把握できていない状況のため、掲載しない。
- ・総合型地域スポーツクラブ Q&A から、総合型地域スポーツクラブ創設ガイド・広報ガイドにタイトル・内容を変更する。
- ・例年10月下旬に配布していましたが、9月の中旬に配布したいと考えています。
- ・内容等に変更がある場合は、8月16日までに事務局までお願いしたい。

⑤実技研修会について（資料なし）。

【事務局からの説明】

- ・群馬県パラスポーツ協会と連携した実技研修会を今年度も実施したいと考えております。
- ・開催時期は令和8年1月8日（日）の1日開催で実施したいと考えております。
- ・実施種目について、昨年度は「ボッチャ」と「車いすバスケットボール」を行いましたが、「車いすバスケットボール」の代わりに、「ゴールボール」という意見もありましたので「ゴールボール」で計画を進めたい。
- ・会場については、群馬県立ふれあいスポーツプラザ（伊勢崎市）を予定している。
- ・今後は、県パラスポーツ協会の奈良事務局長と相談し、進めさせていただくので、ご承知おきください。

5 座長選出

- ・基盤強化事業の事務局が公益財団法人群馬県スポーツ協会にあるため、矢島貢事務局長を選出

6 議事

1) スポーツにおける地域課題の解決に向けた取組について

①フォローアップ研修セミナーの開催について（19ページ）

【事務局からの説明・提案】

- ・本県のスポーツにおける地域課題の解決に向けた取組として、本年度は「持続的・安定的な運営」と「若い世代の人材育成・確保」に向けた事業があげられます。
- ・そこで、若手の人材育成・確保のためのスポーツボランティアワークショップを開催し、スポーツにおける地域課題の一つの解決を図るため、開催要項を作成しました。
- ・目的、主催、日時、会場、参加対象・参加者数、テーマ、ワークショップ（基調講演・グループワークテーマ）について説明し、開催要項並びに募集の方法等について審議を依頼する。

【小出委員より補足】

- ・10歳代～20歳代の若い世代だけではなく、30歳代～40歳代（総合型地域スポーツクラブ関係者を想定）を含めて開催を考えている。
- ・既に県内の大学関係者には情報提供済みで、参加を依頼している。
- ・基調講演者の渋谷茂樹氏は「スポーツボランティア養成講座」各地で開催しており、受講生が多くの場面で活躍している。
- ・参加対象者にパラスポーツ関係者、主催者に「群馬県パラスポーツ協会」を追記したい。

【決定事項】

- ・若手の人材育成・確保のためのスポーツボランティアワークショップ開催要項について承認される。
- ・県内の中・高校生への案内については、県教委高校教育課や義務教育課と協議し依頼することで、助言をいただく。

② 総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団との連携の在り方について(20 ページ)

【事務局からの説明・提案】

- ・現在日本スポーツ協会では、総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団との連携体制の構築に向けて取り組んでいます。
- ・そこで、当連絡会議としても、スポーツにおける地域課題と捉え、今後総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団がどのようにして、連携が図れるか、図るべきか等、委員の皆様からご意見等いただき、具体的に推進できればと、考えておりますので、ご審議のほどお願いいたします。

【大澤委員より質問】

- ・どの段階での連携体制の構築を考えるのか。県段階なのか市町村段階なのか、それによって議論が変わるのでは。

【事務局からの説明】

- ・本資料の20ページのスポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブの連携体制構築イメージの、フェーズⅠ～フェーズⅢに沿って説明する。
- ・JSPO 地域スポーツクラブ(仮)に向け、群馬県としてどのように準備しなければならないのか意見を伺いたい旨を説明する。

【小出委員より回答】

- ・スポーツ少年団は、少子化の影響を受け登録者数が極端に減少傾向にある。また、総合型地域スポーツクラブの認知度は非常に低い。
- ・両者の理念を共有し運営体制の連携により、地域スポーツ環境の基盤強化を図ることを狙っていると思う。
- ・2023年度が目途なので、現状では、「スポレクフェス2025」や「フォローアップ研修セミナー」に両団体(スポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブ)と一緒に活動することから始めていくことで良いと思う。

【小林スポーツ推進課長より回答】

- ・新潟県では、スポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブ・スポーツ協会の3者を集めた会議を定期的に行っている。
- ・本県では、スポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブが連携する行事等を工夫していくことからスタートしていければと考えている。

2) その他

- ・特になし

7 その他

【小出委員より情報提供】

- 令和7年度の全国登録クラブは1, 121クラブあり、内19クラブから認証制度の部活動タイプに申請が出された。現在審査中で、仮に認められない場合は、審査料3万円が没収されてしまう。

8 閉会

以上



第3回群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議 議事要旨

日 時：令和8年2月4日（水） 14：00から

会 場：群馬県庁昭和庁舎 11会議室

出席者：山田知利委員、菅谷美沙都委員、蜂須賀信也委員、中澤則行委員、狩野誠委員、大澤哲夫委員、小野里順子委員、奈良吉造委員、小林秀光委員、矢島貢委員

欠席者：高橋敏文委員、平林知巳委員、小出利一委員

オブザーバー：加藤和樹副主幹（スポーツ振興課）

事務局：小林武広課長、高橋舞主任（全体進行）、吉井均年度雇用職員（報告・記）

1 開 会

2 あいさつ

公益財団法人群馬県スポーツ協会 矢島 貢 事務局長

- ① 部活動改革の現状について、JSPO の地域スポーツクラブ関係の改革や部活動の地域展開が話題となっており、地域スポーツ環境が大きく変わろうとしている時期である。
- ② 今日の会議につきましては、報告事項の他、議題として活動報告書作成における実績評価、実行スケジュール等について準備しましたので、忌憚のないご意見をお願いしたい。

3 情報提供

- 1) 部活動改革及び地域クラブ活動等の推進に関する総合的なガイドラインについて詳細な説明があり、令和8年度予算が補正と合わせて139億円となり、前年度37億円から大幅増加したことが報告された。

【健康体育課学校体育係 部活動地域移行コーディネーター 田島 康匡より説明】

4 報告事項

1) 令和7年度群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議事業についてについて

①地域スポーツ推進団体連絡会議について

（資料の1～2ページ）

【事務局からの説明】

- ・地域スポーツ推進団体連絡会議は例年4回実施していたが、本年度は回の開催となり、委員の協力によりスムーズに進行できた。委員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

②全国登録に向けた県内クラブの实地調査について

【事務局からの説明】

- ・大変お忙しい中記載しました4クラブへ訪問していただき、活動概要や運営上の課題・問題点等について代表より説明を受け、各クラブの現状把握と貴重な意見交換ができたと感じています。また、委員の皆様には、貴重なご指導・ご助言を賜り、感謝申し上げます。令和8年度につきましても、実施できればと考えております。

③アシスタントマネージャー養成講習会について

【事務局からの説明】

- ・令和7年11月29日（土）・30日（日）の2日間、令和7年度日本スポーツ協会公認アシスタントマネージャー養成講習会を群馬県青少年会館で開催しました。
- ・昨年度の9名から23名に大幅に参加者が増加し、令和12年度からの移行措置終了に向けた資格取得の重要性が高まっています。令和8年度につきましても、実施できればと考えております。

④ フォローアップセミナー②（若手の人材育成・確保のためのスポーツボランティアワークショップ）について

【事務局からの説明】

- ・今年度初めての取り組みとして、令和8年1月31日（土）、群馬県青少年会館で高校生・大学生を中心とした若手人材育成に焦点を当てたスポーツボランティアワークショップを開催しました。
- ・30名の参加を頂き、参加者にとっては、今後に反映できる貴重は意見交換の場であったと思います。
- ・令和8年度以降についても、実施方法を工夫し、同様の企画ができればと考えております。

5 座長選出

- ・基盤強化事業の事務局が公益財団法人群馬県スポーツ協会にあるため、矢島貢事務局長を選出

6 議 事

- 1) 令和7年度群馬県地域スポーツ推進団体体制活動報告書の作成について
（資料の3～11ページ）

○令和7年度群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議報告書の目次構成について

【決定事項】

- ・新たにクラブ別研修会、フォローアップセミナー、実技研修会、全国登録に向けた実地調査等の項目を追加することが承認される。

- ア) 令和3年度の提言に対する令和7年度実績の振返りについて
（資料の6～8ページ）

1、人材育成プログラム開発について説明について

【記載のポイント】

- ・令和7年度地域スポーツ推進体制基盤強化事業のテーマが「人材育成（養成）とクラブの質の向上であることから、スポーツクラブの中核を担う人材の養成・発掘を目指し、アシスタントマネージャー養成講習会や公認スタートコーチを実施しました。
- ・資格の有用性を各クラブやスポーツ少年団等の関係者に理解してもらえるよう、適切な情報提供や呼びかけを行うことが重要であります。
- ・スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ関係者にも積極的に参加してもらえるような環境づくりが必要と考えます。

2、子どもの体力向上等のプログラム開発と普及啓発について

【記載のポイント】

- ・今年度も特段普及・啓発活動は実施しておりませんが、日本スポーツ協会が主催する講習会が、3年連続群馬県会場で実施されています。

- ・群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会のブロック別事業として、ACP 講習会が西毛ブロックで開催されます。
- ・ACP の全県下への普及啓発を一層推進していきたいと考えています。

3、インクルージョン社会を目指した活動普及について

【記載のポイント】

- ・バリアフリー社会を必要とする人々が自由に参加し、尊重し合い、支え合うことができるスポーツ環境を構築していきたい。
- ・一般社団法人群馬県パラスポーツ協会との共催事業として、パラスポーツ実技研修会を開催しています。
- ・健常者と障害者の相互理解を深め、共生社会の形成のためには、本事業を継続的に実施し、拡大を図っていきたい。

4、スポーツカによって地域活性化について

【記載のポイント】

- ・全国登録に向けた県内クラブの実地調査を継続的に行い、クラブの課題解決に向け意見交換をクラブ代表と行いました。
- ・部活動の地域展開や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備・スポーツ少年団と総合型の連携（統合）、スポーツを通じた街づくりのための取り組み等、様々な課題が地域スポーツクラブに求められています。
- ・各クラブの将来像をしっかりと見据え研究していくよう、指導・助言を行っていく必要があると感じました。

5、各団体間の円滑な情報共有化を促進するについて

【記載のポイント】

- ・総合型クラブ、スポーツ少年団、スポーツ推進委員等の地域スポーツ団体 関係者で構成する地域スポーツ推進団体連絡会議地域課題解決（総合型クラブの自立と質の向上、スポーツ少年団との連携の在り方、学校部活動の地域展開等）に向けた議論を行いました。
- ・未設置地域への働きかけが急務と考えます。そのために、関係団体や行政と連携し、対策を講じる必要があると感じました。

（7年度実績の振り返りについて）

【記載のポイント】

- ・アシスタントマネジャー養成講習会や、フォローアップセミナー等の様々の事業を開催し一定の成果が得られたと感じています。
- ・「若手の人材育成・確保のためのスポーツボランティアワークショップ」を実施、貴重な発言をいただくことができました。委員の皆様と創意工夫を重ね成果をあげていければと考えています。
- ・公益財団法人群馬県スポーツ協会としても、迅速な情報提供ができるようHPの充実を図るとともにオンラインシステムの構築に向け研究を推進していきたいと考えています。

【決定事項】

※審議の結果、令和3年度の提言に対する令和7年度実績の振り返りについて承認される。

イ) 計画したアクションプランに対する令和7年度実績の評価について

（資料の9ページ）

【評価のポイント】

○4—①について

- ・前年度は「C」という評価でしたが、地域スポーツ推進団体委員による「全国登録に向け

た県内クラブの实地調査」や、推進団体連絡会議の構成員に、スポーツ少年団関係者を増員し、スポーツクラブ育成・推進に向けた議題として取り組みました。

- 本年度初めて開催した「スポレクフェス2025」に、両団体から出展し、活動内容を来場者に周知することができました。
- 委員の皆様からいただいた評価は、Bが2名、Cが1名、Dが1名という結果でした。
- 以上の事から、事務局としては実績評価を「B」に変更したいと考えています。

○4-②については、

- 前年度は「B」という評価でしたが、地域スポーツ推進団地連絡会議として具体的な取組は行っていない。
- 各ブロックや各クラブがおのこの地域課題を把握し取組を行っていると考えている。
- 皆様からご提出いただきました評価については、Bが1名、Cが2名、Dが1名、という結果でした。
- 以上の事から、事務局としては実績評価を「C」に変更したいと考えています。

○年間実績自己評価について

【記載のポイント】

- 令和12年度全国登録申請時から移行措置が終了されます。
- 全クラブの質的充実と持続可能な運営を確保するためにも、クラブ運営の中心的人材の育成・養成は不可欠であることアシスタントマネージャー養成講習会や各種研修会を開催し、一定の成果を収めることができたと考えています。
- 若者の声をクラブ運営に反映させることをテーマに開催した、「若手の人材育成・確保のためのスポーツボランティアワークショップ」では、大きな成果を得ることができたと考えています。

【決定事項】

- 令和3年度提言に対する令和7年度実績振り返りの評価について、4の①を「C」から「B」に、4の②を「B」から「C」に変更することが承認された。

ウ) 課題計画したアクションプランに対する令和7年度実績の評価について

(資料の10ページ)

○4-①について

【評価のポイント】

- 前年度は「☆」という評価でしたが、地域スポーツ推進団体委員による「全国登録に向けた県内クラブの实地調査」や、推進団体連絡会議の構成員に、スポーツ少年団関係者を増員し、スポーツクラブ育成・推進に向けた議題として取り組みました。
- 本年度初めて開催した「スポレクフェス2025」に、両団体から出展し、活動内容を来場者に周知することができた。
- 委員の皆様からいただいた評価は、「☆」4名、◎が1名という結果でした。
- 以上の事から、事務局としては実績評価を「☆※」にしたいと考えています。

○4-②について

【評価のポイント】

- 前年度は「★」という評価でしたが、地域スポーツ推進団地連絡会議として具体的な取組は行っていない。各ブロックや各クラブがおのこの地域課題を把握し取組を行っていると考えている。各ブロック別の研修会の取組が地域の活性化に繋がっていると考えている。
- クラブ別研修会の申請が5クラブしかなく、各クラブの自主的な取り組みが不十分であると考えます。

- ・皆様からご提出いただきました評価については、「★」が1名、「☆」が4名という結果でした。
- ・以上の事から、事務局としては実績評価を「☆」と考えています。

○実行スケジュール

【記載のポイント】

- ・クラブ後継者問題や人材不足への対策について
- ・若者たちの生の声を真摯に受け止め、県内の若者たちが興味関心を持って地域のスポーツに携われるような仕組みや仕掛けについて
- ・「地域スポーツクラブ育成の促進」「地域スポーツクラブ育成の促進」について

【決定事項】

- ・令和7年度の実績評価において、スポレクフェス2025に576名が参加し、スポーツ少年団リーダー会や総合型地域スポーツクラブからの参加があったことが評価されました。
- ・4の①を「☆」から「☆※」に、4の②を「★」から「☆」に変更することが承認されました。
- ・令和8年度の重点目標として、人材育成と若者の継続、地域スポーツクラブの育成推進、ICTの推進、クラブの質向上の4項目を設定することや重点項目が承認されました。

2) 令和9年度以降の活動計画の策定について

【決定事項】

- ・令和9年度以降の活動計画については、令和8年度中に新たな3年または5年計画を検討し、次年度の連絡会議で事務局が素案をつくり提案することが決定されました。

3) その他

【大澤委員より】

- ・資料の文字サイズが小さく、持ち帰って活用する際に読みにくいので、配布資料の文字サイズを12ポイント程度に拡大して作成して欲しい。
- ・インクルージョン社会の推進において、障がい者という表現が保護者に一歩引かせてしまう可能性がある。障がいの概念を表に出しすぎず、発達障がいも含めた幅広い対応には相当な知識と経験が必要であることを認識しておかなければならない。
- ・ACP（アクティブチャイルドプログラム）の指導体制が整っておらず、就学前の子どもたちに対応できる指導者が不足している。指導者育成や幼稚園等の経験がある資格者の活用を検討する必要があるのでは。

7 その他

【事務局より】

1) 令和8年度全国登録クラブについて

- ・資料に記載されている新規2クラブを対象に、登録審査委員により実施いたしました。
- ・令和7年度の全国登録を行うクラブは、継続クラブ17、新規クラブ2の19クラブとなります。
- ・令和8年1月7日（水）・8日（木）の2日間、登録審査委員会における全国登録クラブの事前書類審査を実施しました。

- 登録されるにあたり、全国登録を目指す総合型スポーツクラブに対し申請書提出後、審査委員会委員による審査会が1月29日（木）に実施しました。
- 19クラブの内17クラブが承認され、申請書類が揃わなかった、2クラブが保留という状況です。
- 本日の会議終了が、第2回の登録審査委員会を委員長責任のもと開催し、審議を行います。
- 登録期間は令和8年4月1日～令和9年3月31日となります。

2) 国庫補助事業令和7年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業予算執行状況について

- 令和8年1月30日現在の執行並びに今後執行予定をまとめた表です。
執行率が、92・3%となります。

8 閉 会

以 上

Ⅱ 各種研修会

<北毛地区ブロック研修会>

- 1) 期 日：令和7年9月6日（土）9：00～12：00
- 2) 会 場：沼田市民体育館（ZAKUROS アリーナぬまた）2F小体育室
- 3) 参加者：39名
- 4) 事業内容：「モルック」講義及び指導方法
- 5) 講 師：群馬県健康スポーツ指導者協議会登録者
講師 田中智恵子氏、アシスタント 横坂留美氏、角田恵美氏
- 6) 概 要

開会行事（9：30～9：45）

- ・挨拶ならびに講師紹介 北毛ブロック 小野里順子代表
- ・講師：群馬県健康スポーツ指導者協議会登録指導者（3名）
田中智恵子氏（全体講義、ルール説明を担当）
横坂留美氏・角田恵美氏（ゲームの進行と審判を担当）
- ・田中講師から班分けとウォーミングアップストレッチ実施。

【事業主旨】

○実技研修（9：45～11：30）

- 1) モルックとは
 - ・田中講師から、モルックの歴史、道具の名称、基本的なルールの説明を行う。
- 2) 主な実技内容
 - ・班分けを行う。（1チーム5～6名）6班編成
 - ① 2つのゲーム会場を利用し、3班ごとに分ける。
 - ② 試合場ごとにチーム戦を行う。（3チームのうち対戦のない1チームが運営）
 - ③ 試合場ごとに総当たりリーグにてゲームを行う、ただし、時間の関係で50点に達しなくても、時間の関係で7分を越えない設定で行う。
 - ④ 第一試合場でリーグ一位同士、第二試合場では、リーグ二位同士が順位戦を行う。
 - ⑤ 各試合場の三位同士は時間の関係で、運営に回り、順位戦は実施せず。
- 3) 質疑応答
 - ・得点の数え方について、いくつかのシチュエーションにより、わかりづらいとの質問あり、田中講師からスキットルの位置を示しながら説明していた。
 - ・今回、モルッカーリを使用しなかったため、ラインの踏み越えが多く発生したが特に初心者には犯しやすい反則であるため、注意したい。

4) 閉会行事

- 小野里代表から講師をはじめ参加者全員にお礼の言葉
- 参加者から講師にお礼を申し上げ解散。～11:30
- 後片付け：参加者全員にてマットの撤去、掃除等手分けして行う。～12:00終了)



＜東毛地区ブロック研修会＞

- 1) 期 日 令和7年10月11日(土) 8:30~11:00
- 2) 場 所 太田市 八千代グラウンド(太田市由良町)
- 3) 参加者 23名
- 4) 事業内容:ウォーキングサッカー(実技説明及び指導)
- 5) 講 師:一般社団法人日本ウォーキングサッカー協会 理事統括役員・スポーツディレクター 佐藤 光則氏

6) 概 要

開会行事(8:30~10:00)

- ・挨拶 東毛ブロック 井出康弘代表(館林ジョイ代表)
- ・講師紹介 菊田博之(群馬国際スポーツ交流会代表)
- ・講 師:一般社団法人日本ウォーキングサッカー協会 スポーツディレクター 佐藤 光則氏(全体講義、ルール説明、実技を担当)

【事業主旨】

○実技研修(8:50~11:00)

1) ウォーキングサッカーとは

- ・佐藤講師から、ウォーキングサッカーの歴史、基本的なルールの説明を行う。
- ・サッカー発祥の地イギリスでは、イギリス全土の60歳以上男女にウォーキングサッカー(イギリスではウォーキングフットボール)を行うことを推奨している。
- ・世界的には2014年以降普及され、世界70カ国で取り入れられていて、研究も進んでいる。通常のウォーキングより運動量も多く、無理なく動けることからドクターからも高齢者の体力づくりにはよいと称賛されている。

2) ルールについて

- ・サッカーのルールが基本となるが、禁止行為として、「走る」「接触プレー」「ヘディング」「浮かしたボールでのパス・シュート」などがある。
- ・マナーとして、「どうぞ」の精神でプレーする。執拗なプレッシャーをかけない。足の裏をうまく使って、やさしいゴロのパスを出す。
- ・コートは、バスケットボールコートに7対7くらいで行う。参加者構成によってアンバランスな人数で行うのも可能。ゴールキーパーはいなくてもよい。
- ・正式なゲームでは、コートの大きさ・参加人数・試合時間は別途定める。

3) 班分けを行う。(班編成は1チーム7名)

- ① 八千代の会場を利用し、3班でリーグ戦を行う。
- ② 試合時間は7分1本勝負(前半・後半に分けない)
- ③ ゲームに夢中になるとつい走ってしまうので、歩いてプレーがポイント。

4) 質疑応答

- ・ボールの質について、フットサル用のボールから少し圧を下げて使う。
- ・走るとファールになるので、早歩きの練習をしておくとうい。

5) 閉会行事

- ・井出代表から講師をはじめ参加者全員にお礼の言葉
- ・参加者から講師にお礼を申し上げ解散。～10:50

後片付け：参加者全員でコート整備、掃除等手分けして行う。～11:00終了)



<中毛地区ブロック研修会>

- 1) 期 日：令和8年1月13日（火）18：00～19：45
- 2) 会 場：滋野堤水堂前橋市宮城体育館 会議室
- 3) 参加者：9名
須田貴之氏・星野氏（公益財団法人渋川市まちづくり財団しぶかわスポーツクラブ）
中島弘之氏（前橋バンビ）、小池真広氏（特定非営利活動法人 Lionnetworks）
平林知己氏（特定非営利活動法人伊勢崎支部スポーツクラブ）
瀬谷茂氏・梅澤光枝氏・北爪照男氏・春山通氏（特定非営利活動法人宮城スポーツクラブ）
- 4) 事業内容：宮城スポーツクラブの取組
- 5) 講 師：特定非営利活動法人宮城スポーツクラブ
- 6) 概 要
 - 1 開会行事（18：10～19：45）
 - 2 代表挨拶 中毛ブロック 平林知己代表
※コロナ禍前は、全県下を対象に研修会を実施していたが、ブロック単位での研修会となった。西毛ブロックでは、昨年度から各クラブの歴史を聴く機会として実施することとした。今年度が「宮城スポーツクラブ」を視察させていただくので、よろしく願いしたい。
 - 3 宮城スポーツクラブの活動報告等
講演「宮城スポーツクラブの取組」について
宮城スポーツクラブ副理事長 瀬谷茂氏

【講演趣旨】

○設立の経緯について

- ①平成16年11月に総合型地域スポーツクラブに設立について、県体育協会（現スポーツ協会）より説明を受ける。設立に向けて会議を繰り返し開催する。運営委員会13名で構成
- ②平成17年4月に日本体育協会より「総合型地域スポーツクラブ育成推進事業育成指定クラブ委託事業を2年間受ける。同年5月に関係者25名（体協・体指、自治会長・学識経験者）からなる、（仮称）宮城スポーツクラブ準備委員会開催し、広報やポスターを作成し周知活動に努める。

<この間の主な取組>

- ・他地区クラブの立ち上げを学ぶための視察
 - ・広報誌・クラブ通信の発行
 - ・事業計画（開催種目）・規約の作成・入会金等の設定
 - ・委託費のうち諸謝金をプール（準備委員会委員はすべてボランティア）
- ③平成19年2月25日に宮城スポーツクラブ設立総会が開催され、宮城スポーツく目的・メリット）
 - ・老若男女を問わずいつでも、どこでも、だれでも、いつまでも、単一ではなく複数のスポーツに親しむことができるような環境を整える。

- ・スポーツを通しての健康・保持増進、医療費の削減、人間関係の希薄化等の改善、世代間交流等の意義を感じる

〈評価〉

- ・行政に頼らないクラブを目指したが、総合型地域スポーツクラブの設立意義が地域になかなか浸透しなかった。
- ・スポーツに興味のある子ども、老人が活動に参加している。
- ・スポーツの企画・運営は、行政が行うという考え方が強い。同様に、お金を支払って行うことへの理解が得られない。

4 体操教室視察 宮城スポーツクラブクラブマネジャー 梅澤光枝氏

【体操内容】

- ① 参加者数30名 指導者数3名
- ② 対象学年：年長から中学生まで
- ③ 内容：マット運動、鉄棒、跳び箱、スポーツ鬼ごっこ（気分転換で実施）

【事業行効果】

・各クラブの歴史を聴く機会として実施された研修会であったが、設立当時のスタッフが、現在でも中心となって運営しているため、高齢化現象が際立っている。直面する課題として上がった簿が、会員の確保、後継者不足、資金不足の3点であった。宮城スポーツクラブでは、総合型地域スポーツクラブ育成推進事業育成指定クラブ委託事業の謝金をプールし、運営資金にあてていたが、なくなってきている現状である。今回参加したクラブに限らず、県内クラブも同様の課題を抱えていると思うので、課題とした特に3点について、県スポーツクラブ連絡会議を中心に課題解決に向けた取組を行う必要があると感じた。

以 上



<西毛地区ブロック研修会>

1) 期 日 令和8年2月11日(水・祝) 9:00~12:00

2) 場 所 高崎市立新町中学校体育館

3) 参加者 35名

4) 概 要

開会行事

あいさつ 西毛ブロック 小出利一代表

座学・実習「ACP(アクティブ・チャイルド・プログラムについて)」

講師 JSPO 講師(メンタルトレーニング&ACP 講師) 吉田繁敬氏

【事業主旨】

○前半：座学(9:10~10:15)

①子どもの体力と心の発達における運動の重要性について

※講演者は現代の子どもたちの体力低下について包括的な分析を行った。体力を行動体力と防衛体力の2つに分類し、それぞれが体と心の要素から構成されることを説明された。

※特に神経系の発達が幼児期から小学校低学年で重要であることを強調し、昔の子どもは自然に身につけていた基礎的動作が現在は不足していることが指摘された。

②現代の子どもたちの運動不足と基礎的動作能力の低下問題について

※発育の個人差を考慮しない指導による才能の見落としが見られる。幼少期における多様な運動遊びの実践と、スポーツ特化は中学生以降に行うという方針転換が必要と考える。

③アクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)の効果と実践方法について

※相対年齢効果を理解し、生まれ月による体格差を考慮した長期的な指導計画の策定

④スポーツ指導における適切な指導法と子どもの意思判断力育成について

※勝利至上主義による不適切な指導が原因で子どもの運動離れが進んでいる。結果ではなくプロセスに焦点を当てた指導法の採用と、失敗を学習機会として捉える指導者の意識改革が必要と考える。

⑤発育発達の特性を理解した年齢別指導アプローチについて

※4割以上の幼児が1日1時間の運動時間を確保できていない現状である。世界保健機関が推奨する1日60分の自発的な運動を促進するための環境整備と指導者教育を目指している。

⑥遊びを通じた多様な動きの習得と健康な身体づくりについて

※現代の子どもたちの基礎的動作能力の著しい低下している。アクティブ・チャイルド・プログラムを通じた運動遊びの充実と多様な動きの習得機会の提供が必要である。

【解決策】

① アクティブ・チャイルド・プログラムを全国の学校教育および地域スポーツ団体に普及させることを決定し、日本スポーツ協会が中心となって推進している。

② 小学生期のスポーツ活動は週2-3回、1日2-3時間を上限とし、身体的精神的負担を避けながら意欲的に参加できる活動量に制限することを推奨している。

③ 競技団体は早期専門化を避け、多様な運動遊びを基盤とした指導方針に転換し、全国大会の在り方を見直すことを決定されている。

④ 指導者は結果重視から過程重視の指導法に転換し、子どもの意思判断力を育成するため失敗する機会と権利を保障することが必要である。

○後半：実技（10：30～11：45）

・運動遊びプログラム紹介

- ① 2人1組の遊び（アイスブレイクの指遊び）
- ② 3人1組の遊び（スキンシップの効果：木とりす）
- ③ 4人1組の遊び（言うこと一緒・やること逆・進化じゃんけん）

【事業行効果】

・幼児期における身体活動・運動・スポーツの意義について講師から説明を受けた。特に神経系の発達が発達期から小学校低学年で重要であることが強調され、昔の子どもは自然に身につけていた基礎的動作が現在は不足していることの紹介を受け、私たちの幼少の頃は、「鬼ごっこ」「かくれんぼ」「缶蹴り」等のいわゆる昔遊びが行われていた。自発的に集まり、必然的にリーダーが生まれ、コミュニケーションを図りながら、楽しく遊んだ記憶がある。

今回参加させていただき、健康的で安全な生活を送るうえで上でも、アクティブ・チャイルド・プログラムの必要性を認識させていただいた。今後は、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会でも、普及啓発取組んでいきたいと思う。

以 上



○クラブ別研修会実施クラブ

〈北毛ブロック〉

うすねニュースポーツクラブ

- 1) 日 時：令和7年7月27日（日） 9：00～16：00
- 2) 会 場：沼田市立薄根小学校屋内運動場
- 3) 参加者：21名
- 4) 事業内容：ポッチャ審判養成講習会
- 5) 講 師：群馬県ポッチャ協会
- 6) 研修の成果

- ①正しいルールと審判員としての基礎知識を習得し、障がい者スポーツの理解及び普及を目的として実施した。
- ②ルールの説明を受け、その後、6チームに分かれ一人が審判になり、審判の動作の方法やや揭示法ボール間の測定法などを学び正しく行えた。



〈東毛ブロック〉

おおたスポーツ学校

- 1) 日 時：令和7年10月11日（土） 13：00～16：30
- 2) 会 場：太田市運動公園市民体育館
- 3) 参加者：67名
- 4) 事業内容：スポーツリズムトレーニング体験会
- 5) 講 師：（一財）スポーツリズムトレーニング協会認定
インストラクター 関口和洋氏
- 6) 研修の成果

- ①おおたスポーツ学校受講生を対象に運動パフォーマンス向上を目的に実施した。

〈小学生の部〉

最初は緊張気味だったが徐々にリズムに慣れトレーニングを楽しんでいた。
当日、保護者にも参加を呼びかけ、楽しさと難しさを親子で体験できた。

〈中学生の部〉

少し難しいリズムで始まり、動きに慣れた後、5人1組のグループで練習し、その成果を発表し合った。大いに盛り上がり有意義な体験会となった。



〈西毛ブロック〉

特定非営利活動法人新町スポーツクラブ

- 1) 日 時：令和7年11月3日（月・祝日） 9：00～11：00
- 2) 会 場：高崎市立新町第一小学校体育館
- 3) 参加者：60名
- 4) 事業内容：なぎなた体験・スポーツ・レクリエーション交流
- 5) 講 師：第79回国民スポーツ大会なぎなた

なぎなた成年女子群馬県選手 川田梨乃氏

6) 研修の成果

- ①前半は、ドイツスポーツ指導者へ日本古来の武道「なぎなた」について川田梨乃国スポ選手が説明し演技等を披露した。その後、なぎなたを実際に持って体験してもらった。後半は、参加した子どもから大人まで一緒になってドッチビーで交流した。
- ②ドイツスポーツ指導者からは、日本の武道の説明を受けてから体験できたことについて大変喜ばれた。特に、川田梨乃自身、高校1年時にニュルンベルク市へ派遣団員として交流している歴史的経緯があることから喜ばれた。また、ドッチビーで交流した子どもたちからもドイツスポーツ指導者と一緒にスポーツで交流できたことを楽しみ、バッチなどのプレゼントをいただいたことで良い思い出となった。



〈西毛ブロック〉

Owen スポーツクラブ

- 1) 日 時：令和7年12月13日（土） 10：00～12：00
- 2) 会 場：高崎市桜山小学校体育館
- 3) 参加者：30名
- 4) 事業内容：「はじめてのeスポーツ体験会 ～見て・動いて・楽しもう～」
- 5) 講 師：一般社団法人群馬県eスポーツ連合 平井紳也氏
- 6) 研修の成果
 - ①参加者は、eスポーツの基本的な仕組みや魅力について学ぶとともに、実際の操作体験を通じて、楽しみながら理解を深めることができた。
 - ②子どもから大人まで幅広い世代が参加し、eスポーツを身近に感じる機会となった。



〈中毛ブロック〉

特定非営利活動法人伊勢崎西部スポーツクラブ

- 1) 日 時：令和8年2月7日（土） 18：30～20：30
- 2) 会 場：群馬県生涯学習センター 第4研修室
- 3) 参加者：6名
- 4) 事業内容：クラブの中長期計画作成に向けて
- 5) 講 師：前橋バンビ代表（中小企業診断士） 中島弘之氏
- 6) 研修の成果
 - ①伊勢崎西部スポーツクラブの課題である、中長期的な事業計画の立案に向け、中小企業診断士の講師を招き、クラブ設計から中期計画に向けて、グループワーク形式で意見交換した。他のクラブとも共通の課題もあり、互いに情報交換することで自クラブの設計のアウトラインを感じることができた。
クラブに戻り、役員と共有し、同じゴールを目指して行ける体制を整える意欲が沸く、良き研修会であった。

令和7年度日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー養成講習会 概要

1. 目的 総合型地域スポーツクラブなどにおいて、クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう、クラブの経営資源を有効に活用し、円滑に運営するための基礎知識を有する人材の育成を図る。
1. 主催 公益財団法人 群馬県スポーツ協会
2. 日程 令和7年11月29日（土）～11月30日（日）
3. 会場 群馬県青少年会館 2階中会議室
住所：前橋市荒牧町2番地12
電話：027-234-1131

4. カリキュラム

<専門科目>：(35時間)

科目名	時間数		
	集合	自宅学習	計
地域スポーツクラブとは	3h	4.5h	7.5h
地域スポーツクラブの現状			
クラブマネジャーの役割	3h	4.5h	7.5h
クラブのつくり方	8h	12h	20h
クラブの運営			
計	14h	21h	35h

5. 参加数 23名
6. 参加費用 1,650円（税込み）
7. 講師：別紙参照（日程表）



令和7年度日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー養成コース 日程表

コース名	群馬県（専門科目集合講習）				
日程	1日目：11月29日（土）		2日目：11月30日（日）		
時間	科目	時間数	時間	科目	時間数
8:45	受付		8:45	受付	
9:00	オリエンテーション		9:00	◇クラブマネジャーの役割	3h
9:15	◇地域スポーツクラブとは ・地域スポーツクラブとは ・地域スポーツクラブの現状 講師：上武大学ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科 菅谷 美沙都	3h		講師：東洋大学健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科 谷塚 哲	
12:15	昼 食		12:00	昼 食	
13:15	◇ケーススタディ ・クラブのつくり方 ・クラブの運営 講師：前橋バンビ 中島 弘之	2h	13:00	◇ケーススタディ ・クラブのつくり方 ・クラブの運営 講師：特定非営利活動法人 伊勢崎西部スポーツクラブ 平林 知巳	2h
15:15	休 憩		15:00	休 憩	
15:20	◇ケーススタディ ・クラブのつくり方 ・クラブの運営 講師：うすねニュースポーツクラブ 小野里 順子	2h	15:05	◇ケーススタディ ・クラブのつくり方 ・クラブの運営 講師：特定非営利活動法人 伊勢崎西部スポーツクラブ 平林 知巳	2h
17:20	解 散		17:05	休 憩	
			17:10	◇検定試験	1h
			18:10	解 散	

令和7年度 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
全国登録フォローアップセミナー①概要

1. 目的 全国登録手続きを行うにあたって、申請書類が多く・作成が煩雑である現状を踏まえ、できるだけ多くのクラブの登録を促進することを目的に希望するクラブを対象に4ブロック（東毛・中毛・西毛・北毛）毎に研修会を実施することで、円滑な手続きと登録クラブの増加を目指す。
2. 主催 公益財団法人 群馬県スポーツ協会
群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
3. 開催日時 北毛ブロック：令和7年10月 2日（火） 10：00～11：30
中毛ブロック：令和7年10月15日（水） 13：30～14：30
4. 会場 北毛ブロック：グリフェデュケーションビル
中毛ブロック：伊勢崎西部スポーツクラブハウス
5. 実施内容 ①全国登録に向けての書類の作成及びシステム的使用方法について
②全国登録申請作業における留意点について
③公益財団法人日本スポーツ協会の動きについて
④その他
6. 参加クラブ 北毛ブロック：対面 : 5クラブ
中毛ブロック：対面 : 1クラブ
7. 講師 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 平林知巳氏
同 副会長 小出利一氏

令和7年度 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

全国登録フォローアップセミナー②概要

若手の人材育成・確保のためのスポーツボランティアワークショップ 概要

1. 目的：

総合型地域スポーツクラブは、平成7年度から文部省(当時)が育成を開始して、多世代、多志向、多種目を旗印に地域住民が主体となって運営する新しい公共として期待される組織として全国展開となりました。また、育成開始から30年が経過して運営者等の次世代育成が急務となっている中で、部活動改革の運営団体・実施主体としても大いに期待されている状況です。

今回は、持続可能なクラブ運営となるために次世代として期待されている人達に総合型地域スポーツクラブとスポーツボランティアの意義を知ってもらい、また、持続可能な活動となるために必要なことについて直接意見を聞く機会として、クラブ運営等に参画する意欲を醸し出す方法を探ることを目的とします。

2. 主催：公益財団法人群馬県スポーツ協会 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会・群馬県スポーツ少年団・群馬県スポーツ推進委員会
3. 後援：群馬県・群馬県教育委員会
4. 期日：令和8年1月31日(土) 13:20~17:45
5. 会場：群馬県青少年会館 大会議室
6. 参加者：30名
7. 事業内容：若手の人材育成・確保のためのスポーツボランティアワークショップ
8. 概要

(1) 挨拶

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 平林知巳氏

(2) 基調講演

「スポーツボランティアとは」

～「ささえるスポーツ」の意義、現状と課題

講師 (公財) 笹川スポーツ財団 澁谷茂樹氏

(3) ワークショップ

ア 趣旨説明

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 副会長 小出利一氏

イ レクチャー

「グループワークの行い方」

講師 特定非営利活動法人 きたのわ 宮本奏氏、高橋明見氏

9. 事業内容

(1) 基調講演

ボランティアの定義や種類の紹介、スポーツとの親和性についての具体的例示、ボランティアの実施状況や課題等について、資料に基づきご講演いただいた。

(2) ワークショップ

参加者は各グループに分かれ、講師がファシリテーターとなって進行した。話し合いの

ポイント（段階）の説明の後、2つのテーマについてグループワークを実施し、グループごとに発表が行われた。

10. 事業の所感

基調講演においては、ボランティアの定義などをご講演いただいたことにより、ボランティアの捉え方を再認識する機会となった。

また、次世代への繋ぎ方のポイントの一つとして、「楽しそうに実施する」などの具体策の紹介もあり、若い世代に関わってもらうためのヒントを学ぶことができた。

ワークショップにおいては、「話し合いにおける5つの段階」の説明などがあり、「話し合い」の順を追って実施する方法が学べたとともに、他世代との意見交換ができる機会ともなった。

本事業の実施により、参加者はスポーツボランティアを取り巻く課題を認識し、その解決に向けた糸口を見出す機会となったのではないかとと思われる。



ボッチャ・ゴールボール実技研修会報告書

- 1) 期 日 令和8年1月18日(日) 9:30~15:30
- 2) 場 所 群馬県立ふれあいあいスポーツプラザ 本館1階 体育館
- 3) 出席者数 43名
- 4) 概 要
 - ① あいさつ
 - ア) 公益財団法人群馬県スポーツ協会 矢島貢事務局長
群馬県スポーツ協会矢島事務局長から、ボッチャの講師や参加者に対する感謝のことばとともに、楽しく怪我無く研修会が進みますようよろしくお願い致しますと挨拶があった。
 - イ) 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会平林知巳会長
子どもから高齢者、障がいのある方でも参加してもらえる競技であるので、ぜひ各クラブにおいても進んで取り組んでほしいと挨拶があった。
 - ② 講師紹介 (事務局、吉井年度雇用職員から、ボッチャの指導者を紹介)
 - ③ 実技研修会 午前の部ボッチャ(2試合コート、各1名の講師配置)
 - ・1グループに参加者を8名ずつ割り振り、2グループを編成する。2つのコートにおいてペア戦でゲームの進め方や審判方法を学ぶ。
 - ・各グループにおいて、3対3のチーム戦を行い、ローテーションで審判やゲームの進行を行い、各クラブにおいてもゲームが楽しめるよう研修を行う。
 - ・グループが移動して、相手を変えながらゲームを行う。
 - ・ゲームを進める中で、競技規則が適用される部分では、ゲームの進行を止めて説明。理解ができればゲームを続行。4エンドで終了。午前の部終了。
 - ④ 実技研修会 午後の部ゴールボール(1コートを使用、2名の講師が全体指導)
 - ・バレーボールコートの大きさを使用するため、コートづくり、ゴールの組み立を全員で行う。コートを作る各ラインは、ラインテープの下にタコ糸のようなひもを張って、その上からテープを張るものを使用する。
 - ・二人一組になり、ボールになれるため、お互いにキャッチボールを行う。
 - ・ボールは硬質ゴム製で中に鈴が3個ほど入っていて、ボールには小さな穴が8か所開いている。投げると音で方向がわかるようになっているものを使用。
 - ・午後の参加者は、子供と保護者という構成であったので、力加減が均等になるよう子供同士、大人同士のペアで練習を行う。(1.25 kgは結構重い印象がある)
 - ・3人一組で6チームづくり、ゲームの流れを研修するため、短い試合時間(1回4分)でゲームを行う。
 - ・視覚からの情報を遮断するため、光が入らないゴーグルを着用しておこなうため、初めのうちは、かなり戸惑っていた。徐々に慣れてくると積極的な動きも見えるようになった。
 - ・6つのチームがローテーションをしながらゲームを楽しむことができた。
 - ・参加者全員でゴールの解体・ラインテープの撤去・清掃を行う。
 - ・けが人なし。無事終了。
- 5) 質疑応答・閉講式
 - ・午前中のボッチャでも終了前に、質疑応答を行ったが、参加者がかなりの経験者が多かったため、ルールの解釈やゲームを進める上での留意点を確認することにとどまったが、午後のゴールボールは、クラブの中で取り入れる種目として、今後の検討種目になっていくと思う。視覚障害のある方がクラブに入ってきたときには、健常者も交えて行える種目としては、魅力のあるものであるので、本日参加した人が中心となって行ってほしいと講師から話が合った。
 - ・最後に、県スポーツ協会事務局の吉井さんから、楽しく、怪我無く実技研修会が終われることを講師の皆様に感謝するとともに、会場の提供に尽力いただいた群馬県パラスポーツ協会事務局の皆様にご礼申し上げ、閉講式を閉じた。
- 6) その他
 - ・事務連絡、
1月31日に行われる、「若手の人材育成・確保のためのスポーツボランティアワークショップ」についても、参加者に案内して、終了となった。

Ⅲ 現地調査

〈県内視察〉西毛地区

1 特定非営利活動法人 おにし文化スポーツネット

1) 日 時 令和7年7月9日(水) 10:00~11:00

2) 会 場 藤岡市鬼石158 鬼石多目的ホール

3) 対応者 特定非営利活動法人おにし文化スポーツネット代表 坂元一也氏

4) 出席委員 山田知利委員・奈良吉造委員・大澤哲夫委員

※事務局の群馬県スポーツ協会スポーツ推進課 吉井 均年度雇用職員

5) 日 程 9:45分集合完了 実施調査終 16:00解散

6) 視察概要

①実施種目見学

②各委員からの自己紹介

※進行役は吉井が務める。

※坂元、大澤、山田、奈良の順に行い、事務局担当者として吉井が自己紹介を行う。

③クラブ責任者からの現状説明

④委員からの質疑応答

⑤その他

7) ー①実施種目見学

※ZUMBA を15分間程度見学

8) ー②

※進行役より紹介し、終了後名刺交換を行う。

【活動概要の説明・運営上の課題と問題点】

9) ー③ ○クラブ設立の経緯や実態等について簡単に報告(坂元代表)

① 前クラブの運営が厳しくなったことを受け、県側にも相談し、根岸氏と共同で9年前に「特定非営利活動法人おにし文化スポーツネット」を創設した。

② 種目としてはダンスを中心に、同体育館の多目的ホールで、毎週水曜日10時からZUMBA・BOKWAを週替で行い、年間48回実施している。継続的な会員と坂元担当が勤務している「リフレッシュの森」からの参加者をその都度募り、送迎を行っているため、15人程度が確保できている。

③ ノルディックウォーキングの資格を坂元担当者が有しているため、月2回程度実施しているが、現状の気候から現在は休止している。1時間のプログラムで、5~6千歩程度のステップ数があるので、ほどほどの運動量は確保されている。

- ④ 準競技的なスポーツより、生涯スポーツを中心に考えているため、総合型クラブではあるが種目数が少ない。
- ⑤ 現状の状態をしばらく維持していきたい(クラブの存続が最重要)と考えているので、当面全国登録は行わない。仕事等の関係から担当者自身も多忙であるため、退職後時間ができてきたら活動の方向も考えたい。

【各委員からの質問と意見】

10) -④ 委員からの質疑応答

大澤委員より

Q：特定非営利活動法人を取得しているが、運営面での難しさはないのか。

A：坂元担当者が一人で全ての手続き作業を行っている。以前は県に関係種類を提出していたが、現在は藤岡市への提出に簡素化されたので良かった。一人ですべてを行うため大変さはあるが、PCでの入力のため特に難しさは感じていない。

Q：会費や会員数、構成委員の年齢層は

A：正会員数は20名前後で、内10名は理事である。会費は12,000円で、他の参加者は、1講座(ZUMBA・BOKWA)500円徴収している。ダンスへの参加者は女性が約9割で、年齢層は20歳代もいるが、40歳～50歳代が多い。

山田委員より

Q：活動(ZUMBA)の様子を見学し、生涯スポーツの受け皿が地域にあることの重要性(大事さ)を痛感した。学校の夏季休業期間に同様の事業ができないか。

A：現状では、「リーダーであったり」「指導者であったり」「運営者であったり」、ひとりで何役も担っている立場であるので難しい。また、時間設定が水曜日10時からなので、中学生の参加は難しいが、部活動の地域展開の視点から考えると、今後導入を考えていきたい。

Q：パンフレット等を直接中学校に配布してはどうか。必要があればいつでも相談して欲しい。

奈良委員より

Q：総合型地域スポーツクラブだよりでは、実施種目が10と記載されているが

A：現状は、ZUMBA・BOKWA、ノルディックウォーキングの3種目が中心である。

Q：市からの委託事業はないのか

A：以前市から委託され、ノルディックウォーキングを実施したことがあった。今後市側に働きかけていきたい。

6) -⑤ その他

【事務局より連絡】

- ① 県内クラブのすべてに共通していることであるが、有資格者の育成は不可欠と考えるので、今年度も、11月29日(土)30日(日)の2日間、(公財)日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー養成講習会を開催する。

【まとめ】

- 坂元担当者からクラブ設立の経緯や現状の課題や、将来の構想等について説明を受けたが、構想を達成するためには、日頃の活動を大切にいただき、「活動を切らさない」ことが重要になってくると思う。まずはクラブの体力を付けて、そこから次のステップを目指したいと考えているようであるので、力がついたら全国登録をお願いしたい。

全国登録に向けた県内クラブの实地調査

<県内視察> 中毛ブロック

1 前橋バンビ（旧朝倉スポーツクラブ：令和7年度から名称変更）

- 1) 日 時 令和7年7月13日（日）8：30～10：00
- 2) 会 場 県生涯学習センター 体育館 前橋市文京町 2-20-22
- 3) 対応者 前橋バンビ代表者 中島弘之氏
- 4) 出席委員 狩野誠委員・小野里順子委員・小林秀光委員
- 5) 日 程 8：30集合完了

8：40～10：00（見学・実態調査・意見交換等）

当日が体験イベント日に当たり、通常のクラブ員の他、体験の子供たちと保護者が加わり、大変な賑わいとなった。朝から暑く、熱中症予防対策のため、飲み物を飲む時間を入れながら、活動を行う。

バドミントンの練習と体験イベントは12：00まで行う。

- 6) 視察概要 ・進行役 小林秀光委員
・各委員から自己紹介

【活動概要の説明・運営上の課題と問題点】

○立ち上げからの経緯を含めクラブの現状について報告（中島代表）

- ・平成18年2月26日にクラブ設立に向けての総会を行い、同時に連絡協議会に加入し、活動を始める。（旧日本体育協会の補助を受けて運営を行う）
活動当初は、スポーツ少年団（複合団）を中心に活動を行い、成人・高齢者の参加もあり、160名超の会員で活動していた。
- ・令和6年12月25日に、朝倉スポーツクラブの中島新介代表が亡くなられ、クラブ運営を前代表の子息である、中島弘之氏が引き継ぎ、令和7年4月からクラブ名変更とともに指導スタッフも一新して現在に至っている。種目はバドミントンを中心に軽スポーツ、幼児スポーツと3種目で小学生中心の活動となっている。会員数は、小中学生を含めて29名が参加。
- ・会費については、月4回の活動で¥3,000円を徴収している。指導謝金については、すべて無償で行っている。ただし、指導者の公認資格の資格更新時の料金等は、クラブが負担している。会費の主な使い道は、消耗品費（シャトルコック、ラインテープ）が主なものである。
- ・全国登録については、クラブ名変更とスタッフの入れ替え時に、相談しているが、クラブの活動がもう少し充実してから登録する方向で意見がまとまっている。いましばらくは様子見という状態である。

○クラブ運営上の課題と問題点について

- ・中島代表はクラブ運営上「法人化」したほうが良いと考え、法人化に向けて検討しているところであるが、目標3年後と考え準備を始めたが、もう少し早くなる予測が立っ

ている。(NPO 法人化を目指すという。)

- ・バドミントン部のない中学校の生徒がクラブ員に在籍しており、中体連の大会に「前橋バンビ」から出場することができているのは、部活動の地域連携を先取りしているといっただけであろう。
- ・会場(県生涯学習センター体育館)確保について、毎月予約をしなくてはならず運営スタッフが交代で予約を行っているのが大変である。

【各委員からの質問と意見】

小林委員より

Q：全国登録についての追加説明

- ・令和7年度4月現在、群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会に参加しているのは30クラブで、うち全国登録を申請したのは17クラブであった。
- ・群馬県連絡協議会に加盟されているクラブについては、基本全国登録を目指すクラブと理解している。各クラブの事情で未だ登録できないところには、事の重要性について随時説明を行っている。

A：法人格があるクラブだけが全国登録できると誤解していたので、法人化を優先して考えていたが、運営スタッフ会議にかけて、法人格を持っていなくても登録できることを伝えて前向きに考えていきたい。

狩野委員より

Q：スポーツ少年団の複合団としての活動について

A：小学生のバドミントン専門部とドッチボールの活動にはスポーツ少年団としても活動行っている。クラブ員の中学生数名も少年団で活動している。

Q：中学校の部活動の地域連携についてどのような協力依頼が来ているか？

A：前橋市のまちづくり公社からバドミントンの指導者は県の依頼が来たことがあり、協力したが中学生のレベルと指導者のレベルが合わずうまくマッチしなかったことがある。

小野里委員より

Q：前橋バンビの指導者の中には有資格者はいますか？

A：バドミントンの指導者の中で2名が有資格者である。今後指導資格を積極的に取りに行くよう指導していきたい。(資格取得にかかる経費についてはクラブ側で負担する予定)

【その他】

- ・本日は、朝から暑く、イベント体験できた20名ほどの子供たちも水分補給をしながら保護者と一緒に参加していた。また、ステージには幼児向きのスペースがあり、専門家がついて楽しく遊んでいた。
- ・子供たちの集中が切れないように、準備運動にミニハードルやラダーを利用した体力アップ運動を取り入れていたが、道具類のすべてが中島氏個人の所有物であるので、今後

の維持に困難さを感じた。

- 中島代表一人で、クラブ運営をするのは大変なので、スタッフの中からアシマネの資格を取って協力体制を取ることを勧める。

10:00終了

<県内視察> 北毛ブロック

1 一般社団法人沼田クラブ

- 1) 日 時 令和7年7月17日(木) 16:20~17:30
- 2) 会 場 総合エデュケーションビル2階 沼田市西原新町井138-9
- 3) 対応者 一般社団法人沼田クラブ代表 津久井功氏
- 4) 出席委員 平林知己委員・蜂須賀信也委員・菅谷美沙都委員
小林秀光委員
オブザーバー参加として、スポーツ振興課加藤和樹副主幹
吉井 均年度雇用職員
- 5) 日 程 16:20 集合完了
16:30~ 会場準備
16:35~16:50 津久井代表からクラブの現状説明
16:50~17:05 各委員からの質疑・応答・意見交換
17:05~17:10 調査のまとめ
17:15~17:30 ダンス教室見学
- 6) 視察概要 ・進行役 小林秀光委員
・各委員、オブザーバーから自己紹介

【活動概要の説明・運営上の課題と問題点】

○立ち上げからの経緯を含めクラブの現状について(津久井代表)

- ・2016年(平成28年1月~)一般社団法人地域教育研究所として設立
- ・2021年(令和3年12月)法人名変更を一般社団法人総合型地域スポーツクラブ沼田となる。
- ・設立と同時に群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会にも参加。
- ・2024年(令和6年6月)社名変更(予定)一般社団法人沼田クラブとなる。
- ・現在は、小学生対象のダンス、陸上(ランニング)、サッカーを展開している。
2025年(令和7年度)より、中学校の週末部活動の地域展開の移行支援の一部をフォローする形で、日曜日にバスケットボール、サッカー、テニス、野球を沼田市から受託している。今後は、小学生の種目を増やすと言うよりは、中学部活動の受け皿に注力していきたい。いずれは、大人、高齢者への輪を広げていきたい。

○クラブ運営上の課題と問題点

- ・資金と指導者確保。団体として協賛金を募っているが、なかなか難しい。
- ・中学部活動の地域移行関係は、市の施設を無償で使用しているため、助かっている。
- ・沼田市は人口減少が著しく、数年後には大規模な中学校の統廃合が行われる。市全体で1学年300人をきるような少子化の現状の中で、クラブとしてできることはなにか検証したい。

【各委員からの質問と意見】

○平林知己委員・蜂須賀信也委員・菅谷美沙都委員・小林秀光委員・加藤副主幹からの質問

Q：会費についてはどのようになっているのか？また、経理は代表が行っているのか。

A：会費については、小学生対象の教室は、6,500/月4回実施が基本である。一方、中学生を対象とした活動は保険料のみ、まずは活動機会・場の提供を優先にしている。地元企業に1口10万円で協賛金を集めているがなかなか難しい。経理は専門に1名配置し、謝金の支払い等を担当している。

中学生の部活動の受託事業の謝金は、沼田市が負担してくれているので「無料」、ただし、運営上かかる経費については、クラブの方で負担している。

Q：中学校の部活動地域展開の問題については、どのように考えているのか。

A：中学校のみの問題ではなく、小学生のスポーツ環境やコミュニティの問題として捉えなければならない。周辺地域との連携が必須と考える。中学部活動の地域移行関係は、市の施設を無償で使用しているため、助かっている。

Q：指導者の確保については、どのように考えているのか。

A：指導者は、指導者はプロ、元プロ、元教員、兼業兼職等、専門的な知識を持つ方を配置している。

【ダンス教室見学】17：15～17：30

- ・小学生対象のダンス教室を見学した。教室参加者は6名で非常に楽しい雰囲気の中体を動かす様子が伺えた。リズムトレーニングはジュニア期に非常に有用と聞いていたが、実際に見学できてとてもよい機会となった。
- ・一方向の型に嵌めるのではなく、リズムトレーニング的に、各々の習熟度を伸ばす方向性が垣間見え個人的に共感できた。

【その他】

- ・沼田市は今回訪問した沼田田クラブを含めて、教育委員会やスポーツ協会等、部活動の地域展開について非常に前向きな姿勢であり、様々な試みを実施している。ぜひ今後も、連携体制を継続し、子供たちのスポーツ環境の創出に努めていただきたい。

17：30終了

<県内視察> 東毛ブロック

1 健康夢友クラブ

- 1) 日 時 令和7年8月3日(日) 8:50~10:00
- 2) 会 場 太田市立宝泉小学校 体育館 太田市由良町 1738-1
- 3) 対応者 健康夢友クラブ代表 金井節夫氏
- 4) 出席委員 中澤則行委員・矢島貢委員・小林秀光委員
オブザーバー参加として、吉井均年度雇用職員
- 5) 日 程 8:45集合完了
8:50~会場準備(ウォーミングアップから見学)
9:00~9:20日曜体操教室の実技の見学を行う。
9:20~9:50金井代表からクラブの現状説明
9:50~10:15各委員からの質疑・応答・意見交換
10:15~10:30調査のまとめ
- 6) 視察概要 ・進行役 小林秀光委員
・各委員、オブザーバーから自己紹介

【日曜体操会の見学】09:00~09:20

- ・参加者は、中高年の女性が中心で、このプログラムに参加。(総勢20数名)
- ・金井代表からラジカセで音楽をかけ、次のプログラムを案内する形をとっている。音楽に合わせて参加者みんなで行う。ラジオ体操第一、つなぎの補強運動、ラジオ体操第二まで休憩なく行う。(次の準備中に水分補給)
- ・だんべい踊りの振り付けは、「健康夢友バージョン」の踊りであり、参加者の振りについては完ぺきに覚えこんでいた。曲は、県内共通なものを使用して、踊りの完成度を高める練習を行っていた。
- ・市内各地区で行われる盆踊りにも招待があるようで、昨日も下田中町内へ20数名で踊ったという。本日は、盆踊りで披露した2曲を続けて踊った。途中水分補給休憩を取りながら、ほとんど休まずに動いていた。

【活動概要の説明・運営上の課題と問題点】

○立ち上げからの経緯を含めクラブの現状について(金井代表)

- ・2004年(平成16年~)夢友クラブとして活動を始める。
- ・2012年(平成24年2月24日)設立総会を実施。健康夢友クラブとなる。
- ・設立と同時に群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会にも参加。
- ・現在は、9種目(ノルディックウォーキング・ペタンク・ボッチャ・モルック・ラジオ体操・スローエアロビ・だんべい踊り等)を実施中。
- ・クラブの規模・会員の活動状況、全国登録する準備はできているが、クラブ内の共通理解がとれておらず、全国登録に入っていない。(令和7年4月現在)

○クラブ運営上の課題と問題点

- 中高年の参加（女性が70%以上）が中心で、会費として、月額一人¥500円徴収（年間¥6,000円）している。ほとんどの種目は、会費だけで、クラブ運営を賄っている。
 - 種目によっては、交通費・講師謝金をその都度集めて支払いを行っている。
 - 活動内容に理解を求めて、企業からの協力を受けている。
- また、太田市内の高齢者は増えているが、老人会等の活動が行われなくなったところもあるので、「何かをしたい」という高齢者の受け皿になっていけると思う。口コミを中心に、地区回覧板等で会員の募集を行っている。

【各委員からの質問と意見】

○中澤則行委員・矢島 貢委員・小林秀光委員からの質問

Q：本日の日曜体操会は、どのように取り組んでいるのか？

A：09：00～2時間行います。まずはラジオ体操を第1体操、第2体操とつなぎの補強体操をラジカセでかけながら、一斉に行います。続いて、だんべい踊り、（太田健康夢友オリジナルバージョン）、盆踊りの時期なので「炭坑節」等を踊ります。その後、クラブ訪問に対するミーティングに全員で参加、終了後は、ポッチャのチーム戦を行います。

Q：会員の確保については、どのようになっているか？

A：生涯スポーツを中心に活動をはじめ、中高年の会員を確保してきたが、基本は口コミと地区自治会回覧板に活動計画書を回して、認知度を上げている。

Q：今後のクラブの方向性については、どのように考えているのか。

A：指導者は、ほとんどの種目の中にインリーダーとして存在するので、指導者の若返りだけを考えていけばよいと思っている。より高度な技術やテクニックを学びたいという希望がある場合は、別途謝金を用意し講師を迎えることにしている。

【その他】

○吉井事務局員から

Q：クラブのマネジメントも金井さんだけでなく、別の方にも協力してもらったらいかがか？

A：アシマネなどの講習会に若い人を出したいと思っている。

【部活動の地域展開について】

○中学校の部活で実施している種目を実施していないので、夢友で面倒の見られる内容であれば協力していきたい。

10：30終了

IV 登録審査委員会

審査委員 名簿			
No.	役職	氏名	所属・役職
1	委員長	菅谷 美沙都	上武大学ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科講師
2	委員	高橋 敏文	群馬県地域創生部スポーツ局スポーツ振興課 課長
3	委員	蜂須賀 信也	群馬県スポーツ推進委員協議会 会長
4	委員	小野里 順子	群馬県スポーツ協会 理事
5	委員	平林 知巳	群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長
6	委員	小出 利一	群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 副会長
7	委員	矢島 貢	群馬県スポーツ協会 事務局長

1. 全国登録クラブの実態調査

(1) 対象クラブ・日程 次ページ参照

(2) 調査内容

- ① 活動概要の聞き取り
- ② 実施種目の見学・調査
- ③ 会則や定款の確認
- ④ クラブ代表者との打合せ
- ⑤ 意見交換
- ⑥ その他

○実態調査対象クラブ

〈中毛ブロック〉

前橋バンビ

- 1) 日 時：令和7年12月14日（火） 9：30～11：00
- 2) 会 場：群馬県生涯学習センター体育館
- 3) 対応者：中島弘之代表
- 4) 出席者：平林知巳委員、蜂須賀信也委員、小野里順子委員、
小林秀光クラブアドバイザー、吉井均年度雇用職員

5) 視察概要

- ①代表の中島氏が中小企業診断士とのこともあり、持続可能な運営を見据えた指導者育成体制にたいへん驚いた。単に指導者育成のみではなく、クラブへの理解、協力体制も強くなると感じた。
- ②前橋市内のバトミントン中心のクラブであり、総合型の目的である、多種目、多世代、多志向のスポーツ機会を提供し、地域住民の豊かなスポーツライフと、それに関わり幸福度を譲受するところなど、これから工夫していただけるとありがたい。さらに、発展していける地域クラブとして成長が期待できると思った。
- ③代表の父の代からの継承（2006年設立）3クラブ合併でのクラブ、指導者への謝金はなく、資格取得、登録料金の支出のみの事、代表の説明の端々に自信とリーダーシップを感じた。

〈西毛ブロック〉

特定非営利活動法人PALAISTRA

- 1) 日 時：令和7年12月16日（火） 19：00～20：30
- 2) 会 場：育英大学グラウンド
- 3) 対応者：育英大学 根本想准教授
- 4) 出席者：菅谷美沙都委員、小平林知巳委員、小出利一委員、小林秀光クラブアドバイザー

5) 視察概要

- ①教育学部がある大学として、今後大いに期待できる大学を中心とした総合型地域スポーツクラブとして発展する予感があった。
- ②既に法人格を取得して活動しているクラブであるため、会則や約款等はしっかりした内容であった。小中学生のサッカーが中心であり、県内でも有数の強豪チームとのことで、県内外からセレクションを行って集めているそうである。今回、総合型地域スポーツクラブとして登録をしたいとのことなので、他の数多存在するサッカーのクラブチームとは違って「地域スポーツクラブ」であるという特徴をぜひ色濃く出してほしいと感じた。

③育英大学は1学年200名、そのうち130名がスポーツに携わり、また教育学部もあり、ある意味人材の宝庫である。既に高崎、前橋、玉村、伊勢崎と協定を結び、スポーツイベントや部活動に学生を派遣している。また大学の単位としてのインターンシップを活用することで、部活動地域展開の課題としてあがっている指導者不足の課題も減少するように思う。是非とも、県連絡協議会としても、豊富な人材の活用を整備して行きたいと感じた。

事前書類審査 概要

1. 開催日：令和8年1月7日（水）・8日（木）14：00～16：00
2. 開催場所：ぐんま総合スポーツセンター 本館 測定室
3. 出席者：菅谷美沙都委員長
蜂須賀信也審査委員
小野里順子審査委員
平林知巳審査委員
小出利一審査委員
4. 審査の重要ポイント
 - (1) 多種目・多世代になっているか？
 - (2) 公認クラブマネジャー並びに公認アシスタントマネジャーの配置がされているか？
 - (3) 役員の50%以上が地域住民か？
 - (4) 令和5年度の事業報告・決算、令和6年度の事業計画・予算案が総会で了承されているか？
 - (5) 種目ごとに公認スポーツ指導者が配置されているか？

第1回登録審査委員会 議事要旨

1. 開催日：令和8年1月29日（木）10：00～12：00
2. 開催場所：群馬県庁昭和庁舎25会議室
3. 出席者：菅谷美沙都審査委員長、蜂須賀信也審査委員、小野里順子審査委員、
平林知巳審査委員、小出利一審査委員、矢島貢審査委員
事務局 橋本繁男係長（県スポーツ振興課）
加藤和樹副主幹（県スポーツ振興課）
新井はるか主事（県スポーツ協会スポーツ推進課）
吉井 均年度雇用職員（県スポーツ協会スポーツ推進課）
小林秀光クラブアドバイザー（県スポーツ協会）

4. 開 会

5. あいさつ

矢島貢事務局長から、本日を迎えるに先立ち去る1月の7日（水）、8日（木）の両日事前審査をしてくれた委員に対し感謝を述べ、本日の審査の慎重審議についてお願いをする。

6. 委員長の選出

登録審査委員については、令和7年度審査委員会を開催するにあたり、委員の任期2年となっているため、役職指定で交代になった高橋委員を除く変更はなかったため、引き続き、菅谷委員に委員長として会を進めていただくことになった。

7. オブザーバーの選出

登録審査細則第4条により、審査会の進行を補助するため、オブザーバーとして、県スポーツ協会所属の小林アドバイザーの参加を認める。

8. 審査手順の説明

- ①令和8年度の全国登録を希望しているクラブの資料について説明。
- ②審査については、申請してきたクラブごとに、審査情報を基に行う。
- ③審査時間を短縮するため、各クラブから申請のあった書類をまとめたものを1月の7日（水）8日（木）の両日、5名の審査員による事前審査を実施して、資料の確認を行った。指摘事項として、あげられた内容については、別表に表し、クラブごとに、資料が整っているかを審査し、疑義のある点について質問してもらい確認し、全委員の承認をもって、全国登録申請クラブと認める。

9. 審 査

- ・No.1 特定非営利活動法人新町スポーツクラブ・・・・・・・・・・承認
- ・No.2 おおたスポーツ学校・・・・・・・・・・・・・・・・承認
- ・No.3 うすねニューススポーツクラブ・・・・・・・・・・承認
- ・No.4 特定非営利活動法人NPO法人宮城スポーツクラブ・・・・承認

- No.5 特定非営利活動法人群大クラブ・・・・・・・・・・・・・保留
- No.6 特定非営利活動法人渋川いきいき健康スポーツクラブ・・・保留
- No.7 特定非営利活動法人伊勢崎西部スポーツクラブ・・・・・・・・承認
- No.8 一般社団法人しょうわスポーツクラブ・・・・・・・・・・・・・承認
- No.9 特定非営利活動法人はるなスポーツクラブ・・・・・・・・・・・・・保留
- No.10 一般社団法人F o h l e nスポーツアカデミー・・・・・・・・・・・・・承認
- No.11 特定非営利活動法人川場村スポーツクラブ・・・・・・・・・・・・・承認
- No.12 特定非営利活動法人館林ジョイススポーツクラブ・・・・・・・・・・・・・承認
- No.13 M I N A K A M I T O W Nスポーツクラブ・・・・・・・・・・・・・承認
- No.14 一般社団法人 Owen・・・・・・・・・・・・・承認
- No.15 スポーツクラブ沼田・・・・・・・・・・・・・承認
- No.16 しぶかわスポーツクラブ・・・・・・・・・・・・・承認
- No.17 L i o n n e t w o r k s・・・・・・・・・・・・・承認
- No.18 前橋バンビ・・・・・・・・・・・・・承認
- No.19 特定非営利活動法人 PALA I S T R A・・・・・・・・・・・・・承認

No.1～No.17については、令和7年度に引き続きの更新クラブである。うち2クラブ（群大クラブ・渋川生き生き健康スポーツクラブ）は、申請書類がそろわなかったため、保留となった。したがって15クラブについての更新申請を承認する。

また、No.18～No.19の2クラブは、新規登録クラブとして、審議の未承認する。なお、保留になった2クラブについては、次回の審査会（2月4日水曜日）菅谷委員長による審査を行い、追加承認する予定。

10.その他

事務局から今後の手続きについて説明。

追加審査については、委員長一任で、事務局に提出された資料を確認の上、追加承認する。

全19クラブを更新と新規に分け一覧にし日本スポーツ協会へ申請を行う。

【審査委員から次の意見】

- 今回から、緊急連絡網の整備を一覧にした申請書類が加わったが、各クラブともしっかりした内容で安全対策は行われていることが確認できてよかった。
- 提出書類が多いことと記入や登録の方法で分かりにくいところがあるのでブロック別によりわかりやすい方法を指導するフォローアップセミナー開催したが、提出時のミスが多かったため、次回はより具体的な指導が必要ではないかとセミナーの講師から意見が出された。

11.閉会

菅谷委員長から円滑な運営に協力いただき感謝していると挨拶があり閉会した。

第2回登録審査委員会 議事要旨

1. 開催日：令和8年2月4日（水）15：00～16：00
2. 開催場所：群馬県庁昭和庁舎25会議室
3. 出席者：菅谷美沙都審査委員長
事務局：小林武広課長（県スポーツ協会スポーツ推進課）
高橋舞主任（県スポーツ協会スポーツ推進課）
吉井均年度雇用職員（県スポーツ協会スポーツ推進課）
小林秀光クラブアドバイザー（県スポーツ協会）
4. 開 会
5. 審査手順の説明
 - ①第1回の登録審査委員会において、19クラブ中17クラブが承認され、2クラブが保留となった審査結果を確認。
 - ②事務局から保留になった2クラブからの再申請の書類について説明。
 - ③菅谷委員長に各クラブから提出された書類を確認。
6. 審 査
 - ・No.1 特定非営利活動法人群大クラブ・・・・・・・・・・承認
 - ・No.2 特定非営利活動法人渋川いきいき健康スポーツクラブ・・・・・・・・承認

*以上、1月29日（木）第1回登録審査委員会において、保留になった2クラブについて審査を行い、承認された。これにより令和8年度全国登録を申請してきた19クラブすべてが承認された。
7. 閉 会

編集後記

令和7年度の本事業も、県当局をはじめ、関係団体や関係者のご指導とご協力により、ほぼ予定通り終了できますことを、心より御礼申し上げます。

これも総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の皆さまの会の運営等への建設的なご発言・ご協力なくしては遂行できませんでした。改めて感謝申し上げます。

令和7年度の事業を振り返りますと、今年度新たな取組として開催しました、若手の人材育成・確保のためのスポーツボランティアワークショップでは、県内の高校生や大学生を中心に、幅広い範囲からの参加がみられ、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団関係者にとっては、今後につながる事業であったと考えます。

さて、近年少子化の進展により、学校の規模が少なくなる中、1つの学校単位ではチームスポーツなどが十分実施できない状況となっております。また、学校における働き方改革の必要性は一層高まる中、学校の教師のみに頼る指導体制では維持できない状況となっております。

また、高齢化により、スポーツを通じた健康増進や社会参加の機会が減少する可能性があります。

このような背景を受け、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団への期待は一層高まってきておりますが、残念ながら現状は厳しい状況であります。

一方、国の動向として、令和7年12月に文部科学省より、「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」が策定され、改革期間が令和8年度から10年度（前期）、令和11年度から13年度（後期）の間に原則、全ての学校部活動において地域展開の実現を目指すことがしめされました。

県スポーツ協会としましては、現在推進計画の改定中である群馬県の方針を基に、県当局や関係団体と連携し、諸課題の解決に向けて誠実に取り組みたいと考えます。本事業については来年度も実施予定となりますので、従前にも増した充実した事業展開を進めていきたいと考えております。

末筆ではありますが、本事業において多大なるご尽力をいただいた、県当局、群馬県総合型スポーツクラブ連絡協議会等関係各位に改めて感謝申し上げますとともに、今後ともご理解ご支援をお願い申し上げます報告書のまとめといたします。

公益財団法人群馬県スポーツ協会 事務局

スポーツ安全保険[®]

小さな掛金で充実補償



熱中症も対象



ネットで簡単手続き



スポあんネット
インターネットでかんたん加入

団体活動のための総合補償

#スポーツチーム #大学クラブ #スポーツ少年団 #放課後事業

#総合型地域スポーツクラブ #教室 #部活動地域移行 #文化系サークル #ボランティア

保険の詳細内容、
資料の請求は、
ホームページを
ご覧ください。

